夫木和歌鈔 九 雜二

和書門 類
一八二五一 號
二二五 函
六 架
三七 冊

内閣文庫
和書 類
一八二五一 號
三七 冊
[illegible] 函
[illegible] 架

内閣文庫
番號 和 18251
冊數 37 (21)
函號 200214

綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館 National Archives of Japan

昌平坂學問所

夫木和歌抄巻第二十

雜部二

歌

山

山

天の暮山遠　千里

夫清見かたくもれつゝみしつまへこれ行山をもなくそ経

百首御歌　後九条内大臣

白雲のへたつるかたの山すれや名をのとさしてみゆ何かたし

二位百首御歌　後京極摂政

晴わたる天下の果ひはかつき物を富士と遠かりもふり

名所歌　光俊朝臣

見わたせは志けのうすもとをよこす山本のゝはらくにひとはなとかひ雲

千首歌　卿為家

あらし山あれのへ九桜咲しらまかひし松の色はみえわかき

寛元元年女御入内御屏風

太政大臣実兼公入道

嵐川の山のさくらの花のちりかかりゆくかりのうけたる　ゆきさ

冬四年中

亀山院御製

嵐　このもとに散紅葉の色も風さそひて亀山の雪は雲となりて

百首歌

前中納言為家

嵐　嵐ふく嵐の山すそあらし吹雲のさくらちらすなりけり　こしへ

名所歌

同

春のさくらさとおりて山よしの花はありとみえ

中つ山嘉元二年百首　入道前太政大臣

今さらにみよしのの花の色に吹そへて小倉山さへしらぬ庭の秋の色

新後拾遺 永久三年十月太神宮文字合歌

読人不知

千代やふる新さとの山の雪ふかくてゆめつけてそ見しる　きさらぬ

文永元年七月百首

藤原為家

嵐吹峰の新嶺山のみしめそめはなのさとゆくかよ嵐の山とこれ

これ程年の山永仁元年亀山五十首山館落葉

亀山院御製

花のりの夕日の色まて中に入りとちのかりとくれなゐの山

杣岡山　顕季卿家歌合　藤原實定卿

見わたせはしの木すゑの紅葉かなちらぬさきにとたれもすくさき杣の山

横雲山　正應五年三嶋社十首　暁花　前関白

見えつるも花のほかなる八幡すきて松にかゝれるよこ雲の山

百首歌　大藏卿有家

かきくらす雨木末の紅葉をもいろにそめつるかくや雲の山

さゝなみや山　新院社歌合　紅葉

俊恵法師

大井河あらしの山のうつりきてくもりなくにもみちそう（か）るゝ

同井判　清輔朝臣　左のみこ山　俊恵

大井河の岸によりまたはてのみちのやま

つらしとはみえ山のはつかしはなくて

山のはゝ人すくなきにもやみちと

夕さりの山　承仁三年歌合　藤原範永朝臣

風葉の露をもみちにはらゝ秋の夕さりの山

このかれ山　承保三年五月左大臣家三の合

まつ人もなし

秋ゆきてたゝかれはつるこのかれ山

くらゐ山　仁安三年建春門院林花合

さえすや雲井の山のみねしらんにはまても色晴にけり

久方の山　建久八年秀能すゝめける月并

権中納言定家

秋くれは月のかつらを吹かせの雲にかゝりてのひさかの山

まさこ山　洞院摂政家百首　月

民部卿家

秋の夜の明るの夜のまかたに山のはよいさよふ月のかけ

嵯峨ひの山　嘉禄三年百首　同

あはれたゝよひの山のつきをとふ富士のたかねとみえて　すまし

よしの山　山家のくれ　自空法師

十

ちはやふる八重たつ奥のいしかくれ花の山のまきのしたかな

嵯峨の中を山家集中　西行上人

河なみのまさにはたちて山かつてそへ人いまはならし　かつらん

うつろふ山　郭公　長屋王　作保

十三

君か代のちりつもる山とならんまてたかきいやさかえをいのるかな　いつまてや

いつも山　まさ人志つに

大宝

雪のかすやうつろのいろひつくひさかたのそまれたえ　そ移

名所部　家集入道大臣

いちの山のたきよふのふまくれぬとて花ひそゝ色そめて　そめ

すゑの山　洞院摂政家百首

紀伊のくにすゝみのゝ山の峯つゝき雲ゐる人は雲ゐにかへらん　従二位家隆卿

たかの山　民部卿為家

五六三
こゝろある山のおくの庵の霧はれてよるの月さへさやけかるらん

兵衛佐　同

たかの山のいたゝき苔のむすまてにたえせぬ法のみちそかしこき

高野山雑歌の中　一條内大臣

年月のうつりをもしらてふみわけしわかれもしらぬのりの山

高野山本院左大臣家歌合萩

よみ人しらす

鹿の音も高野山の寺枕これはおもてうきをしらすやあるらん

いもせ山詠同　人丸

五一
吾妹子にあかこひゆけはともしくも人妹背の山ならひをるかな

五二
いもとせとならへるまゝにいもせ山たちそひてこそ見るへかりけれ

五二
妹背山まてしはみつと見てしるさそれゆきこのみさきしかるを

同　よみ人しらす

五三
いもまよあつしおもひの下へ入てふりしのふ妹背の山とこそきけ

長哥

津の国の名にはあれとも伊勢の山　……

あしひきの山路ともなくいさゝかに……

百首歌　　後一條家經卿

雁聞とひとくれないこま山それと色みえぬ春の夕くれ

洞院攝政家百首　　前中納言定家卿

津の国のこやさく花とも色みつ伊駒の山の峯のしらくも

権大納言實家卿

いこま山松のあらしのさくらちるそのこすゑふかん

此年哉宗家大夫の以寛方行しかつら錦

きりふ葉さそうりて猿へしとうふそつゆまへ

たへまの露とくれつりよ攪てとこ白辺

返しまよめるともく

保安二年九月関白家会山月

藤原為業

生駒山こえけるもいつ七宮のとれよ月のすみける

永久四年百首歌　　源兼昌

いこま山手向にこれやこのもみちはいくちちて紛くそら

雑歌中　秋風　　源富法師

神さふる伊駒の山のおさへあらしにまかせつ人とゝめつるけ人

六帖歌　　光俊朝臣

夫木

神さふるいこまの山のもみちはゝそめさりしかふしとゝろ

いまくにの山　盛国周防

よそ人にしらす

嘉元
すまふらかいこまの山をとふらん日へたてはゆけとも世にあかさき　その名

続千載集哀　　中務卿親王

よそにしていこまの山の峯なれと猶さりしきはこの世なりけり

続古今中　　右大臣藤基氏

いこまのあるし山みちかすみて立しくもそかゝるあまのかくれか

洞院摂政家百首　藤原正三位知家

あふ事はさこそかたくといひていこまの山をなかむるこゝろ

嘉元二年百首　　前中納言定嗣

ちこされきさいこまの山よ我末ひく空のほかにも世をしのふらん

いこま山　続後撰　河内守文字王　よるへしとも

いこま山たかしきも世りて峯のこゑもよにあられなかなかなれ

新葉集恋中　　従二位家隆

哀れ山おけ峯ともよはおもひのそらひとつ恋はまたすれ

いこま山大和　新千和　よるへしとも

はのさかりいこまの山はむかしのかけもまた雲はかはらさる

いはせの山　観音文きれ　人丸

ちはやふるいはせの山のはなさかりいのちとゝめてひとむそむ

弘安三年走陽山百首　安嘉門院四条

大原やいはせの山をわかれてはなをちまよひむさしのに

いはせの山　催馬楽文献中　　中納言家持卿

百十九 まちこしにおもひかねつゝいさよひのせの山を帰るさに ゆかん
いさこ山をよめる　笠金村
五 いさこ山野へには咲さの萩をにはまさりいへとも山花しそ 名寄
山家　洞院摂政
新後 あふさかの関のあなたのいさこ山いつふきこえん人の通ひち
いさこの山 六家集　後九条内大臣
あしの屋のいさこの山のみなかみをたとりてそくれは神のさゝ
百首御　左中将具氏
あしの屋のいさこの山の峯よりおつる流のたえすそとらん
いもせの山 妹背同 紀伊　笠金村

百四 をくれゐてこひつゝあらすはきの国のいもせの山にあらましものを
読人不知
百七 せの山にたゝにむかへるいもの山ことゆるせやもうちはしわたす
百七 人ならはおやのまなこそあさもよしきの川つらのいもとせの山
百三 橘の葉かれたるまよせの山のしたをのすそにゆけはたえぬ
いもせ山 同集の 建保三年名所百首
きのふ色秋のこのはに露とおくいもせの山も色松の白露
前中納言定家
月　従二位家隆
秋の夜のいもせの山に吹風の音まてしらしもはゝ名のなれまそ

同　従二位行能

みかさ山雲のかけはしくれてもくもゐにのほる月の

宝治四年太上院大嘗会屏風　悠紀御歌

岩の上にすむかつきの山はさやけき秋の空

いつさ山　伊吹とは又云下野　建保三年内裏百首

従三位行家

夕つくひさすやいつさのさしもくさ雲のかたえもゆふしくれぬる

同　前中納言定家

秋をへてかそへし月のいつさ山きえしてひとりゆくての比

同　正三位知家卿

木すゑまていつさの山のさしもくさしつく秋のしくれに

同　藤原康光

照月に風はいつさの山のはにさえくらしていはつ関の夜河

いまきの山　大和　重家卿五首歌合　郭公

順徳院御製

つきすもあるかなしのいまきの山のかけ

いそしの山　安芸　丹波　大嘗会悠紀方風俗巳日

あまてらすいそしの山のかけ

兼入道寛治大嘗会

延久大嘗会　秋風　式部大輔実政卿

さきの志らしけ人しらぬ夜ハいそちの山代松のこゝり
天仁大嘗會　帥中納言匡房卿
いつまても山にあをねまけ枝とゝ絃なりつゝゆきにならそられしき
いかむしろの山をは　正應大嘗會
民部卿資宣
かくりゆき久に年よいかむしろの山田もるとはみえもかひなや
いかつさ山 紀伊又備中　菅範朝臣
源為隆
はる田のうへさへ民の代ゝなれはいかつさ山のゆきうへなら
いなふち山 大和 薗洞　よみ人しらす
秋されはいなふち山のきりしくもとよまさりけり言さへそする
いろくの山 備中　同
志らさきや花のいろくの山乃よそにはみえつゝ我はるなの花そ
いつつら山 大和 雷　寛治二年一首
帥中納言匡房卿
久堅の雨しふるてハ天のいつつら山ハさきくもりけり
いたちさ山 常陸 或下野　好範朝臣
よみ人しらす
みちのくよりきかいそくのいそしまの山よ年ふるまれそ
いそその山 陸奥 家集　西上住知家卿

きえんしてたのもんハとしもあまねくいはその山のときはかきはに

いはせ山　後撰　清中　読人しらす

すほうる身のうさしやいはせ山いはてくるしきなけきをそする

いはたの山　未詳　新葉集　將軍郡下

おのへのもみちはちるをまちかけていはたの山とおもひきへ

なゝひの山　大和　未詳　文仁大嘗会

藤中納言信家石

着衣のそてよ雪いちらくされおさまるむきいなのいは

いはくら山　石見　山城　兼盛

きのこハいはくら山にたちかえて万代ゆくそとのといはまは

いはとし山　備前　近江　名寄の中　正三位知家卿

ゆきふりてそけふはしもいのりし稲荷しなをすきの雲にそ

正應大嘗会　民部卿

さか木とるいはとも色いはとの山のふもとにはひかけやつむらむ

いはさか山　石坂　丹波　九条内大臣家百首

左近中将具氏

敷かへるいはさかやまのこすゑはときそしらん

大嘗会和元悠紀方石坂山を

よみ人しらす

増のすむいはさか山のひめこ松千代のはしめにきえぬる

いはけ山 国未勘 家集 樹陰卯花
皇太后宮大夫入
夏山ハありけれとも照日にもすゝしきいはけ山よさかるうの花
いやたか山 天仁元年大嘗会 権中納言通房卿
峰のまつやいやたか山の木見えてやちよへん人の世よりかさねん
いはら山 未勘 紀伊 法性寺入道関白
良基二品
いはら山ときはのあのゝすそにかるれはこれさへもすゝむらん
そつる山 卿家 寛元家五百首 合書判 御製
右京花縄
きくらくしにしのゝさくらにはさかりいはる山かけにて みよしの
いなさ山 但馬 丹波 家集 祐挙
いなさ山ねのしたつしはなかれよそれやみちしるへ常にはなれて
建保四年百首歌 前大納言
未年ふるさとかはしたしんきつさゆるいなさの山に雪の木ならし
家集 同山花 鴨長明
あつきらつもさくらいなはん花てさらにおそか日は
いなり山 山城 家集 安法法師
いけの面よりけそうつきはいなり山こつのわささよあさやかろえ
家集 いなりよまてうろよ嵐のりこえゆ
およ 元真

いなり山やましろこえて代ひすひあけてまちくらへけよすくへてしか
つゝこの山 摂津 建長八年百首歌合 衣笠内大臣
ほとゝきすつゝこの山乃あさかりあくつま摂ちてとゝめてなかなむ
いさゝの山 伊勢 古来曰 同
新六五
嘆かんいさゝめの山乃さくらもはなとはいまにちらへともとも
いはた山 嘉保二年十二月源経仲朝臣
郁芳国名所歌合 源顕経朝臣
いはた山まひの月かさやけきは雪のかしみんへそすれ
いこまひの山 国未勘 永久三年十一月太宰帥文福定家
合続 ときへしす
若代八ちとせまつちとこゝろみすのいこまひの山とすらんときかへて
いかるか山 紀伊 く海のよまつかりとき 平忠盛朝臣
秋もみまつよこゝろやつきなんいかるか山よそくれしきに
いし山 正元々年毎日三百首中 民部卿為家
かひこさき花のさかりよくつか見る山の春の月かけ
いさせ山 近江 文和文よ女百首歌合 後京極摂政
うちきのひいさせの山ももくれなゐのくれなゐしへそなき

いたくら山 或云相模 又云駿河中 忠見方違屏風

権中納言匡房

あしひきのいたくら山の峯までも流めかれぬかとこそ見れ

とこよの山 相模国 詠 よみ人しらず

九十四 あしからのとこよの山よりあかぬ夜をそみとはつかりのかとおぼつかなしともあやし

九十四 足柄のとこよの山よりふくかぜのひるはかりこそねられざりけれ

萬葉 松之部雪 西行上人

とこよ山末すゑもまつやちきりんかさねはかの雪ふかしふし

堀河院御時百首 顕仲朝臣

ちらさしとさくらんものを足柄山あふくれはさりつ玉篠の上

貞応三年百首 民部卿為家

とこよ山あらしの里に宿とへはかくれぬとしもみえぬ人

河左家集中 前参議雅経

つゆしけしみちともみえぬとこよの山末すゑの雲によそに見む

路次記云 さてとこよといふかたにみちそひ

まことのみちはあらき山のすそをかくれみえしと人はたへはあはれこそまとのみちとはおもふ

てしこそ

前大僧正源恵人ことまて千首奇よまて参りけるに

為家卿

とこ山さらしき風にちる桜のいろよりこきはなかみかな

とこよ山　後嵯峨院入道二品親王家五十首

従二位家隆

あきをつくるたもとにくれはとこよ山ふもとの里をかりしこゝろ

文永三年毎日一首中　民部卿為家

と初瀬の志山松かしのそらしかなくなきて見やらん

建保四年百首　西園寺入道前太政大臣

明玉

出つれは秋にしくれてまたねこめらぬをのこもの山の峯のあらし

山家明月　清輔朝臣

初瀬山こよひのやとにたのまれは月よりさきに月は出ぬれ

ちかよ山　名所の　備中　正応大嘗会

大蔵卿隆博

とそしるちとせ桜のちとせ山君をそらくにまかさせまうて

なかその山　花園左大臣家集

西行上人

河霧をしのびそめ山は秋くれて錦のいろをまたくらふなり

かはらの山　山城　花のさかりに侍従有房の

年もへてつらきおもひのなくさめの山ふかき心のさとをたつねむ

侍従頼観

たかはたの山　拾遺愚草　又かり　中務卿集

西行上人

あさかつゆかりそめしこの山ちとせのためしくらふの山にかやしおりしん

くらふの山 未詳　内大臣家歌合嘉応二年歌合

富能法師

白露は萩の下葉におきそめてすゝきかもとは井手のさと　こえて

同　盛忠

ちらぬへき秋のもみちはいかならむきりのみそらはくらふの山

くらふの山 未詳 大和　歌集　権僧正公朝

暮るへくくらふの山も花ちりて雪はふりつゝ明そしらるゝ

正治二年百首　深師光

時わかぬくらふの山よなかしくかはもみち

くれの山家集中　俊頼卿

時雨するくれの山はもみちのにしきの色かさねけれ

ちしきの山 近江 半

たつ霧も深くはうすく紅葉するのしつこゝろいまはあらしの山

まつちの山 丹生大和 又紀伊　読人不知家集

をのか名をまつちの山にいつまてかひさしきはなのさかりなる

光俊朝臣

読人不知

百首之

あさのいりそめかねのひゝき山のさくらこそいつまたつかりまくらぬるらむ

百首歌　中務内のこと

よしのの山あらしのさむけくにはつせのこれぬ檜原もかすみ まよへり

かひたる山 参議 藤の花 従二位家隆

百廿六
はるさやいつやとかんよひたる山いるのゝ桃花よるすし

はるさ河山 細河 大和
よく人もしらと

百廿七
みなかみの河そそ河山よりあまら瀬つゝかすてこは さとる

わしとるの山建長七年歌合家隆百首

源仲業

百廿八
よしとてかく代よろかぬ久ゆくのあさくてくり入つとらの山

とこの山 名所 ことの
歌合和 よみ人しらと

百廿九
あかつきのとこの山をりいさや川きのこのはいこひつても おもん 人

百卅
しつるおいとる山松のもちつくそ王ら色まくるこの月 さと

とこる山 名所 山城 歌合和 同

藤久の浦は君かす昔こと 従九条内大臣

百卅一
そのまろいゆえもあひろぬえろうさに秋をうすさ 嵯峨 山

とふるる山 備後 加賀 千首歌 國のな家

それとこ山をひらてるゝ浦とさたやをよみれりさとる さむ えん

長歌

百卅九
ますらりえれは浦とさたやてき時ねひとるのときけて

ぬしも去とよれと人ますて色のとうるる山をとひとし さらそ

あけたてハわかのさ枝よりうつされハ月よしひて

曽丹集三百六十首中　好忠

ときハ山さやさくうつろの萩かもと秋ハ霧こそたちかくしける

ときハの山　山城　又常陸　八條院内の歌の段乃かくへ

堀河右大臣

ときハ山かけをとりの井河水の絶すそきかれくらし
まゝ

永久三年十二月廿非参議歌合　顕

讀人不知

君か代ハときハの山の岸つたふ八千代のハこひあらそ
まゝまて

拾遺集　源兼光大臣

ときハ山八尾のみとりいつれぬはたちかへりても代々つたへけん

千五百番歌合　醍醐入道太政大臣

まちえたる木のしたかけすきときハ山月をこゝろとたれかゝこゝろん

新古今集雑中　源有淵

これをそあはれときはんときハ山松の岩間の月

家集　好忠

ものゝこゝろかはらぬちかひときハ山こそのとおもりのかけとて
みゆる

日　能宣朝臣

うつりかぬときハの山の紅葉のいのちハ錦そとゝまらん

ときハすゝの山　大和　續後撰集中　よみ人しらす

かくれなき色こそ見ゆれ中々にときはの山の名にたてそみる
ときハつき山 土御門院 従二位家隆
君か代ハときハつき山のさかりにもよろつ代まても万代ふるまて
ときハ山 同 続千載集 前中納言為藤
ときハ山のかけにまかせてゆく末の千代をはあふく人そのりしか
新古今 貫之
よみ人しらす
君かためなをけさゆくこゝろ山のときはのかけのたのもしきかな
さかへ松のときはのかけに人のなかめけり
のりより 祐挙
とこのやまのあらしにきえし雪やかくらん
とこの山 丹波 大嘗会風俗 寛治 神楽歌
都にもかくしてあらハときはなるとこのやまよりそ世をすくす
とこ山 寿永元年 悠紀主基 寛治 大嘗会
新古今集 後京極摂政
いにしへのとこそとうつむとこ山の
ちとせの山 読人しらす
君か代のちとせの山のかすにいる
ちとせの山 又 丹波 仁安元年 大嘗会
藤原正家朝臣

春きてもまたこれひく千世山すその里にみえけるかな

堀河院御時百首　中納言師時

君つくる松のこしろもかはらじやちよの山のあらし吹らん

康平四年三月祐子内親王家歌合

ちよ山　よみ人しらず

春秋くらしかさねてちよ山にや万代のこゑきこゆらん

嘉禎二年十一月百首(?)家(?)親(?)院(?)　従二位家隆

うごきなき千世の山のさかきはは(?)ひさしき代々のかざしなるらし

ちよひらの山　百首中(?)寿山(?)

従二位家隆卿

わきまよふやるかたもなしちよひらの山のおくなる峯(?)のかよひぢ(?)

[illegible]の松山　家集部云　源仲正

雲はれぬ[illegible]の松山のいはほにはたちよせけりて鳴わたる之

ねのひ山　伊勢　鴨長明

見(?)はてくそのねのひさしきもとすゝしくきちる(?)布引の山

此布(?)伊勢記云二見のうらちかき山は[illegible]の海

山ぶきやくらにみえけるを布引の山ぶきみくよ

めぐりこえ(?)

すそこえの山　居法(?)家集

法峯(?)

あさこえて岩田の山やちらしあかその森はあらしに

同　よとこきの山人のうき　待賢門院中宮上総

雲つつむさとこえ山の月をこそしるへにゆきてみるらく

さとは山　山城　家集　伊勢

あさとは山木の下かけはなれのみそれてしるきあきのうらさ

洞院摂政家百首　光俊朝臣

とは山のくもゆけはひとつこの月そいさよふあまのかはなと

新名寄　藤原頼房

一本作

鶴のみかへさよりあさとは山すそ野の里にやとりせんとて

夫木抄　小塩山城入江　建長八年百首歌合

從一位行家卿

おしれしきをやかなるのとしかの山みえしの松し

家集　光俊朝臣

小塩山小松のさらなきさかりの河瀬のうきまつ也

洞院摂政家百首詠　同

君か代はとしかの山の松葉の長きすえのとほしはきこえ

新名寄　よみ人しらず

なかめこしとしかの山はしらかみや神代の宮も

寛喜元年女御入内御屏風　山城　松尾多

民部卿為家

ゆすゑもちの林とやさしか山井の人の里乃ねむしのこゑ

とこの山 此歌山城又近江 或山城 建長七年顕朝卿家千首

光俊朝臣

嘉元百首

とこの山花をたにこそもらへさそいつれの神のはくくみならん

大宮前太政大臣家歌合

よこ人おもひます

わすられぬ小倉の山のおもかけにいつかしらまて鳥とこの山

郭公

重仲のみこ

とこの山なれるしき夜の月はあらしのそこにくもとなりけん かれ

知とこ山 後石清水歌合 従二位家隆

ゆふしほわたりの島にはとこの山影ほしてかはのかけ

正三位知家

同

なかりてとこよをかぬとこの山かひはなくてあはれましえ

永久四年百首名所題隆源家

源兼昌

男山そのさくらはよそにみつのほしの影そてそうる

後冷泉院御時歌合 無風

おとこ山みねのさくらは花なれやしらくもかゝるうつれ

前大僧正隆弁

うつくしき雲のおもみえてわたる山おとのかはにすむ人あはれ

文永八年…よそにまうて侍りけるに

の川のなかれもたえすして男山さかゆく
みちて始られいまあるとこそ
をとこ山 古注 永万二年五月経盛卿家歌合
郭公　賀茂重保
ほとゝきすなかなくさきぬれはとこそはなをとこ山のひゝきれ
永久三年十二月大弐長実家歌合 郭公
まさへしくも
きえのこるやまとのさかのかみさりは
長実
三
をりくのいつその山のあけほのゝ
とこそあやなとまちいてん
みとろ山 美濃 天仁大嘗会
中納言道房卿
きみかよはとことはなる山のまつえたのなかきいくちよのよはひ代かな
大嘗会悠紀方御屏風 辰日退出音声
皇太后宮大夫俊成卿
時風の吹てこそさそへ百代よのまつのえにもよるなみ
ともすその山 小やまと 丸保 西園寺入道太政大臣家三十首
従二位家隆卿
夏すゝみ月待人のあさなとをすその山のしたかけ
ともすその山 後の 光台院入道二品親王家五十首

山家月　後徳大納言

浦風静やとこしてすてて山の端はなかそしけし秋の月はさりけり

とこの山　近江　文永元年十月内大臣家百首合御會　源承家朝臣

いにしへもめつらしきかなとこの山の桜はうつるはなれの御影

建仁二年五十首寄四季花　俊成女

春くれはむかしの里とかはりけり秋せられけるとこの山桜

家集　大納言師頼

うき旅はよそのさとくもとをらうてはなをかけてよとこの山かく

久安五年七月右衛門督家歌合　源有房朝臣

浦さむみ嵐のしほにしほされて志つまよふかとこの山里

とこしの山　陸奥　紀伊又

松やおもふねさやかなるとこしの風すさんいつれの秋さかゆくとこしの山

時雨　俊頼　人くくりくるよこまんまつそ奥のおくよ

をとなしとこしの山よ松風のひゝきくるそとき

ときこゆ

ときすれの山　陸奥　郡不知　よみ人しらす

六三

陸奥のあふさかのおもてすそく人まちわれそのやまはさき

まつうち佐山　和泉書　薩摩　大和

中納言家持卿

まゆみ弓君かひきけれはとにかくにわかみもそことこゝろよするかな

まくらの山 近江 名寄 七百首歌 摂政正三位為家

ひとかたに雲の浪わけ分ゆくにまくらの山のをちかたのさと

まとかた山 若菜 大和 三百六十首中

好忠

あさ日のさすやまとかた山まつかせのさやけきよはゝまつ吹さかむ

神路の山 伊勢 天暦百首御歌

慈鎮和尚

わかくにゝおさまりけるそおなしくはすゑ神路の山のゆくすゑ

大神宮百首歌中 後鳥羽院御製

神路山いすゝ河原のかれなくはたのむこゝろのまことしるらん

文應元年七社百首 民部卿為家

神風やいのるまつけて神路山千代松かしのおなしまさめ

建保三年内裏百首 前中納言定家卿

すゑまてもかはらさりけれは神路山榊葉まけていつる月かけ

みすゑ山 大和 紀伊 新撰六帖 太納言経信卿

春日山ふもとにたてる松のみはあひおひの春は神やまつらん

家集秋歌中 従二位家隆卿

みすゑ山みねのすゝきのをはなにもかはらぬ秋のかせそふくなれ

延喜十三年三月亭子院歌合

よみ人しらず

ちはやふるみかさの山のやまさくらひらけはおしき常とこそみて

方十二
神山のやましたとよみゆく水のみなかみしらぬはなはなりけり

かも山 みぬかくに 又 津守丹波 読不知 同

永万二年五月経盛卿家歌合

清輔朝臣

神山のさかき葉のかはらしそ人よ千年の松によく代はまつらん

同

右兵衛督経盛

神山はまつかこゝろのかはらねは代々のこたへはかはらさりけれ

寿永元年百首於大炊殿 長方卿

神山の松の嵐に雲きれてまなこて宮のさかき林の木の間月

家集

摂政

神山のしゐのくちてさしのほるひかりそ君かさかへゆく末

老若歌合

寂蓮法師

神山の麓の清きさとにかくれたるみしの庭てするかな

堀川院百首

藤中納言通房

神山のかけとみえしのみちはゆくやしらつゝおろす

家集

恵慶

いかにしてみるめもありけん神山のゆふたちのさきかけてみつ

名所中　賀茂成助

とよみてゆふとそみゆる神山のゆふさりの雨の桜かさねる白雪

かも山　かもの　山城　寿永百首歌合　賀茂重保

明ぬらん山の名のみくらしもすかたにはかくしもすそのかけなる

みわ山　大和　寛元二年結縁経百首

藤原為家

天くたる神のみわ山そしるしとそおもふまにまとみえてうしらさき

建保三年名所百首　前中納言定家卿

又見ゆ八天のかく山見とちて雲そかゝれる霞のまさき

かく山　大和　持統天皇御製

春すきて夏きにけらししろたへの衣ほすてふあまのかく山

天暦四年五月庚申十五夜歌合

よみ人しらす

霞たつ春こそ来れひさかたの雲ゐにみゆるあまのかく山

家集　清輔朝臣

かく山のはゝかはまさに末まてもさしはうさきのたちかへりうらなひ

此哥ハ山隠るよ万葉集に書しては葉殺さてまつりたる玉の枝はいよあはれそうらなひ

命とこそひかれハ天暦帝の四十賀への時

被るれは葉殺のまことうさきたるこの八年賀歌

なんとありける例をかきいでゝまゐらせ云こ

長歌　人丸

万三
あもりつく あまのかく山 霞たち 春にいたれば 松かぜに
池浪たちて さくら花 このくれしげに おきべには かもめよばひ
へつべには あぢむらさわぎ 百敷の 大宮人の まかりいでゝ あそぶ舟には
かぢさをも なくてさびしも こぐ人なしに

かく山　大和　文治六年五社百首

皇太后宮大夫俊成

春のくへのこむけの杉ふ二まつふかくもかく山の雲のしらるゝ

同家集　常盤井入道太政大臣

新後撰
春のへのうきとかく山のむかしのこれ三ゆるかりの春風ぞふく

拾遺愚草

霞たつふりにし香具山のさくらにかゝる花やたなびくもあるらむ

をくら山　山城　家集　大江嘉言

万代
をくら山のふもとの草庵にすみし松井のうへよりかゝりけり

弘長元年百首　民部卿為家

亀のをの山のいはねによりてつくりつゝききすさきよゝのくもらで

家集　西行上人

万代のためしによびかんかめ山のすそのゝ原にしげる小まつを

後宇多院入道二品親王家五十首

かめ山の岩ねにまつのひさしさをあつかれはさゝし万代まては
覚延法師

続集　　大納言経信
亀山にいくかへりさく木葉の千とせはのとかにしてそ万代いのりつゝ

続古今集大嘗会哥に　　元輔
榊葉のいろもかはらぬ山よりもときはのかけとたのむへきかな

延長二年左大臣家屏風哥に
かめ山のちよをとほしてゆくすゑはまことさつきの幾代へぬらん
前中納言公任

なかれてもたえしとそ思ふ亀山のこけの下まてよろつ代
此哥ハたかのりもとの新院かわかれにて
かくもいはそ又の白河かゝしらかとなく

続集羈旅に　　和泉式部
紅葉はのちるをもまたし亀山のふもとをつくしてそあらしもまちそまん

家集祝代　　大納言経信
岩井河ひさしきことにかけうつす亀のお山のまつそたえせん

続古今集雲十首哥　　権大納言実家
亀山よかりつく岩の下さしてさこそ滝河のみなもとくし

関白家哥合　　経範朝臣
かめ山のいはしきさぬまにかゝるさくらはひさしきさ千代の声にかはらさり

かつらき山 大和 歌枕名寄　よそ人と

春上
桜花のかつらき山によそ雲のたちてもかくもやそらに

百首御哥　慈鎮和尚

かつらきや和山はすむ山のさくらはるさき（春の）曙

深山花　前大納言経平卿

新古
いふ山まて雲ことにかれるかつらきや高まの桜いまや咲ぬらん

建保三年内裏名所百首　従二位家隆卿

春霞かさなる雲やかつらきの山乃高まの桜なるらん

正三位知家卿

をとにきくかつらき山の桜をもみすきてしまゝれ しやまと

かさしの山 国未勘　建保二年　権僧経範

春
春の日はかさしの山乃桜さへおもふところに西行はさら

かさしの山 信乃　千五百番歌合

野宮左大臣

梅の花香をのかをりに咲なからかさしの山

小野社百首御哥　後鳥羽院御製

吹みたるかさしの山の桜をもかさしの雲をまつやまちえん

うきさの山 美濃 近江　建仁元年五十首哥合

前中納言定家卿

うつろはてうきさの山乃桜をもかけぬかつらの袖かなとす

建保三年内裏名所百首　従二位家隆

まつ山人のあさこえの霜はおもしろし紅葉の山代ののりの道

あしから山 相摸　読人不知　人丸

五十四

薪こるあしからの山のこのきれまつとあるかいまこもるらんやわん

家集　前大納言公任

足柄のかりつくしてよりなりまでおもてなかちぬあしからの山のさ

此哥ハあひ志れる人の箱根の湯まいりには

人をとりまいて京おもひ志るわかる中まこれ

かへしあしからのふもとにのこしおくく

かくれにし山 河内　読人不知　あさくらさしへよらん

かつらのやかくれの山のたちまちに雪ふらしに降そへる女

かさひら山　若乃御歌

二条太皇太后宮肥後

さ秋まてかくふる山の霞くさひらにさらのあとをかなん

女の山 山城 康背　読不知　田邊福丸

女の山本立お志らくにわさきすさきとも雨ふりまさる

山女子かうらくをとくてふ女の山とのひのかけましハ枕とるみまねのさお

寂勝四天王院名所障子後京極院御製

泉河みなとこえろく吹女まくへすしき女のやすのは

長方　よみ人志らず

百六
河ゝせにうかへる雲にふしみのさとのまよふるをしらて[ふきかへまよひ][しらすそ]
かくれの山[伊賀][伊勢] 読人しらす
百一
まちかこハわかちゆらんかきつくものくれの山とかゝるらん
[伊賀]かくれ山[同][山城又][淡路] 同 人丸
百十
くらき山のふもとひとつにはれまよりのこるさくらはちりやあけん
家集 祭主輔親
かゝみ山よかくるねさしつる常盤木の枝よかゝりまひすすくのの
うきひの山[丹後] 永保元年大嘗会主基方
四季帳 前中納言匡房
いつしかとかひの山のさかしきをいくたひこえてつきなき[illegible]の山
読人しらす
百十二
いふきのやまのみしとりも色ならひの山のもみちとなりぬ[illegible]
百九
さかおもひてはるかにひさしき歌ならひ山にさかりけり[illegible]
百十
うとかひの山ことよそにゆくかへかさなる橋之かけくらくお
百首御歌 土御門院御製
としろ木の歌ならひ山のもみちはなしけきかけそ[illegible]
後奇 読人しらす
百三
あさなあさなゆきもそきてそ ふるしら歌るひのやまのよそにやま
後拾遺はなまつりて
くやの山[河内之能][讃岐] 能因[illegible]

草枕ひとよふしみにひとれはかやの山さとにも鳴うくひす

後九条内大臣家歌合　正三位知家卿

志ら雲のかやの山さとに鳴鹿のさそひみやれて秋をしる哉

かすかの山　周防又筑前 或昇乃　読人不知

よみ人しらす

みの國の海よの山の日くれはかすみてそなをふけゆきてらす

ひさしき

十六

春霞よもしられてさいはれはかの海とかすかのひさしの

読人不知

さ

ふかきりのはれそめてかよふ山みちのかりかねのかよひちしらぬまとひか

かさめの山　美作 備中　前大僧正慈鎮

大蔵卿隆博

あめふれはかさめの山のもみちはをきてこそ来れ秋のあかすさ

かさとり山　山城 信乃　寶治元年百首

冷泉太政大臣

たちわかれいつしかまよはせかさとり山のたちまちにけり

読人不知

よみ人しらす

さ

あきかせるみちには雨もひぬ山志らぬのかさとり山やおほろなるらん

玉葉集　西行上人

雨さそふひたのくれやかねへしてむかれぬかさとりの山

かさぬひの山　兼乃　あつまへくたりけるに

安嘉門院四条

こひ人はみのうらひくれぬめにいまやとりかさぬひの山

此哥路次記云阿仏房かりきくしゝかりつゝ為時為

よすきてかりこし世はかさぬひの山のもとに入と

いみ春よ菅をそてねとときすてとなと

かゝみ山　近江の山也　或云　君か代は閑をうつしてのりて見ん　作者

ことゝへし　寸

あつさらひけふよろこひのかゝみ山みるくもうすへらくらん

同国鏡山にて作　平兼盛

大君のむつこゆあやそよろこひのかゝみの山をこそやとさかへ

家集雑部中　中納言家持

くもりなきかゝみの山とこゝのへにけふこそいはひのかゝみさこうこう

天延元年内裏歌合　元輔

名さしもしき昔のかゝみのむかしよりかゝみの山そいとしさやけき

家集　能宣朝臣

あれ田のみさへすみかゝみ山名をすまれなるかぬいとくらくとく

永仁大嘗会　前中納言為方

萬代よろつよのかゝみ山ねつのさうまとてうつる

当代　ふこ宿知家

拾遺六

雪ふれは志らぬおきなもかゝみ山松もさなから老そしにける

百首御歌　前内大臣

むかしきゝかゝみの山よわか雪ハふれしつもりけるよと見ん

大嘗会屏風　権中納言定家卿

むかしよりくもらぬ光をかゝみ山君かの月も行末もてらさん

建保三年内裏百首　従二位家隆卿

あふみなるかゝみの山の月かけはあきの夜すからてらしけるかな

正三位忠定卿

大海によそのたれかけみかゝみ山山のすかたもおもかけにみゆ

九条　慈鎮和尚

かきくもるかゝみの山の秋の月さしのほるかけもうつりけるかも

千五百番三千首中雪　権僧正公朝

鏡山ちらつ雪ふりつもりつゝ色も見えぬの冬のけしき

毎日一首中　民部卿為家

あまつそらひとつにみゆる鏡山ゆきのいろもくらくの影そうつろ

長歌　額田王

やすみしるわか大君のかしこくやみえたる所山しなの

かゝみの山によるはもことことに

かゝみの山　非鏡　紀伊国名所　よみ人しらす

百九
ときのまもちりしてみるとものゝふのさかゆくあたしかゝみやまちはらん

かゝみ山　御神楽村　保安四年大嘗会悠紀方
風俗　　藤原敦光朝臣
九代
あふみのやかゝみの山のさかき葉のいや年のはにいのりまうさん
正應大嘗会　同
八代
万代とさしてうつろふあふみやかゝみの山のさかき葉のまさきの葉
かゝみなし山　弘安備中　大和又冊波風俗　光明峯寺入道前摂政
末指已ゝ志くれて志らしつれしきすかゝみの山のときはのみ
文永五年中務卿親王家歌合　従二位行家

ふるさとのなれにしゆふかりあすよりやよしのゝ山にこもりまつらん
吉野ゝの宮よ由緒事の内　持統天皇御製
五十一
みよしのゝ山したかせのさむけくにはたやこよひもわかひとりねん
読人不知　人丸
五十二
山きはにいつくしみのゝ花さかりしらゆふ山の峯のしらくも
長方　よみ人しらす
みよしのゝ花の山よりみわたせは峯にけさは新古比り
さくらあさる君か
正治二年百首　皇太后宮大夫俊成
わかためのみさひのゝきよりもみよしのゝやそのおくそすゝしき
千五百番歌合　春陽門院越前

み吉野のさくら山の花やちるらん雲にまかふ風のふくなれ
花月百首内　慈鎮和尚
みよしのゝ我山のむかしハおなしよそにみるかの木すゑや雲ならん
久安五年七月右大臣家歌合山桜花　西念法師
吉野山むかしの桜よ風ふけハ峰を若葉の雲そかゝる
百首中　前大納言忠良
新勅撰
みよしのゝ花ともいはし鶴かねし松の梢の山の雲の空
よしのゝ山　横田とに　歌集　鴨長明
しらやまよめのつもりにしらさし山みよしのゝかしりけりかく
よしのの山　丹後　大丹後　寛治二年百首　光俊朝臣
春霞たちかくせとくれや松原のゝさき丹後の山
歌集　和泉式部
旅人ハゆきゝとよめりあちきなくいふのとこなかの露の　此歌恋
まこ山　紀伊國　又常陸　歌枕　人丸
下ニ
妹とせのおひさまよりしけるまよひき我ハことゝ山へかのあたなすか
六帖歌　光俊朝臣
新六ゝ
河ミしていさよ庭をしるい津みゆかまこ山すそのあたりくもりん
まつら山　大和　歌枕　よミ人しらす

夏
海辺のわたは津まて浪よる山につゝしさくらんかあかん
ふし見すもやますたかひくゝ山あそせん日かきれもしらん色
忠岑
たつ雲の高嶺の嵐にかたへの色さそふ峰よりもみち家さそふ嵐
家集　人丸
松まとらかしもちる山かくも色みえる松のみとり
保安二年九月内大臣家歌合　基俊
かつ散るらむれ山よいつしまて神さひよこするもれるしらん
千五百番歌合　左大臣
龍田山こしのむかひの里はさくら咲らん花月
百首御歌　後鳥羽院御製
白雲のかゝるの桜咲小初瀬山をかけて吹春風
阿一上人
高田山嵐のよそにたつやすの里にはなにほひぬらむよ
此歌ハ河内国高安郡よりよむ事をは此すむ
西はつての様子ともかみ人のあるよしよて侍る
人のよしみよもそ清けりけるとなく
同集夕紅葉を　八条二品の宮御子撰物
たつたひめそむる紅葉の山のもみち葉はあかしさしそめ百分

五十
たかせ山　大和又近江　武蔵相模　よみ人しらす
紅葉とも花ともおしむ人とかや高田の山の秋の夕暮
同　梅上良安
久さゝにも高田の山の花もみちいつれの春へよりさきぬらん
同　よみ人しらす
五十二
よそのめのみえしはひとつ久かたの高田の山の桜ちりなん
建保二年名所百首　従三位範宗
時雨とも秋やいかにかそめぬらん高田の山にあらしふくなり
たまつしま山　和泉紀伊　又阿波　詠不知

志乃ひつまはたゝをとりつゝ神代よりさえたるたかき　時山
あふさか山　高之和　又吾の　よみ人しらす
五十七
こゝろ山よりいくらのみちの岩つゝしみれとけふそよりよくおしまれ
五十八
みれはかはいまもいつしへにたかまの山の雲のまにまに久る色
堀河院百首　後九条内大臣
春月夜のあさ雲つゝむたかまの山のみねのさくらをそれつる哉
たかまの山　高和泉　又大和　あふさしれ
よみ人しらす
里とよにきみはとるらし高松の野辺の山おほきさくらつれ
六十
久かたの秋もさやけき高まつの山のたかしまの雲をかさねて

永仁六年会　　前中納言俊光

ときはなる君をそあふくたかしまや露のさやまの松の山

たかつの山　高津　石見　郡不知　　人丸

いはミのやたかつの山のこのまよりわかふる袖をいもミつらんか

小野宮百首四季　　後鳥羽院御製

いはミかたたかつの山に雲はれてひれふるミねをいつる月かけ

高まと山　大和　郡不知　八束郡卜

万八
春日野に時雨ふるミゆあすよりはもミちかさゝん高まとの山

無常中　　左京大夫顕輔

万代
たかまとの山乃嶺つゝきあらはれて秋そ色こきてるもみちかな

建保三年内裏名所百首　　正三位知家卿

たかまとの山のをのへにすゝきちるあきもすゑなるこゑのしらつゆ

たつ田の山　大和　内大臣家百首

前中納言定家卿

よそにのミこゝろかけゝるやまさくらたつたの山のさくらはな

同　　従二位家隆卿

かつらきやたつたの山によそにミしさくらやいくへかさなりて

しかの山　四之　暦仁元年百首

後堀河院

なかめつゝたのミしやまのよそにのミおもひてすきしあきのよの月

題不知　よミ人しらす

ゆふされハ田上山のまつかせにあらしもさそふ嶋のなミかな

あしまの山　近江　同

さよふけてよこくもさして照月の高嶋山よりいつるかな

まつらの山　三百番歌合

　　　　　　従二位家隆

まつらの山かけの月ハ光そへつやさしけかりのかすミ

たまの江の山　近江　仲雅(?)朝臣

　　　　　　　　光俊朝臣

ところたまのえやさしの葉にそてうちしたふ人の

　　　　　　　千五百番歌合　大納言(?)

旅ねけきもすミ山のまへのさしのまかやまのうへのかみのまつのみ

三輪のかミ山　家集　頼仲朝臣

明方の..のうらの..ふもとのうミ山わたりてまつ

あかつきの山　紀伊　百首歌

　　　　　　　　　　　　寂蓮法師(?)大輔

おもひやるわかこゝろのみたえまなく..

寿永三年百首　藤原為家(?)

花の..とさきのいのちの山の松のむらさき

さくら井の山　信乃　衣笠内大臣

そのまゝに花さかハつゝしもとのやさくら井の山の雲の

ふる山　摂津　六百番歌合　寂蓮

法橋顕昭

かつらきや見えつるやまのさくら花よしのゝ山にかゝる白雲

たかまの山 高間 大和 前摂政家歌合

よみ人しらす

よそにのみみてややみなむかつらきのたかまの山の峯のしら雲

たかの山 高雄 山城

権大納言忠教

たかをの山清瀧河をそこにみて谷のけめくる松のした風

文永七年毎日三首中 関白家

たかしの山なかれてすゑもかはらしなたかまの山のよとのかはなみ

たかしの山 備中又丹波 前中納言匡房

君か代は高師の山の田によするちとせもつきぬ山のゐなかのみつき

保安四年大嘗会悠紀屏風 たかしの山

ゆきの人のこゝろのまゝに田によるはちよもつきせぬ

天仁元年十一月大嘗会丹波国屏風

あをみつ代山のかけの里なれはつきせぬちよの千とせ松風

たかくら山 高倉 近江 大嘗会悠紀屏風 己日退出

前太政大臣師実

たかくらのたかくら山のしらくもはきみか代のためよろつよのためよりよく

たかさこの山 高砂 播磨 建長八年百首歌合

法橋寛俊

黒人のつまふ岩代の名をとて此武山に雲かゝりけり

ときはの山　建長七年顕朝卿家千首歌　源仲業

ときはなる時をまちけり岩そゝくときはの山の松のさまにも

くちなし山　御撰　或清輔

よみ人しらず

さかきとるわかちはや山のたちまちに見えよあらんとみえね さかしくを

このまの山　摩子山　近江　康治元年大嘗会悠紀方風俗

はかなくもかれぬる山よりも雅やかなるちよの月日かさねなん

正慶大嘗会　風俗　資富

うこきなきかめの尾山のおさまれる世にあひぬる千歳をそ見む　又夫木

ときはの山　又ときはの　家集　相模

あられふりたまきの山にいまそ来ぬこのもかのもにちりそまかふと　こそとへ

くちなし山　大和　同

ゆく人のこぬ日ありともくちなしの山のさくらのいまそさかりの

かゝつき山　備中　大嘗会　隆精

かゝつきの山の月かけよつゆさへみえてなれや更るかな

あさくら山　近江　堀河院御時百首

紅葉するたつたの山の林ゆけハ志らてそいつる錦おりし
能仲卿に

一 うつゝの山 大和 万葉集 人丸

あさかしハぬるや河邊のしのゝめのうつゝの山のまちちかへん

たまつの山 或本に 又母坂 正家朝臣

たくとひくしらへの中に代なれハたまつの山によるへこそまて

毎中の山 絶等寸 讃岐 能しらす

よみ人志らず

方九

ちゝの山の柏木の採むさく人書へはいそ代もさて

のかしハぬれて袖のしつくのたつの山かやむ日もなきにゆくそひ 丹生 日 ハ

順集 歌よ 柿の枝の白浪とてうちよすみむ山そ

留まのはへるはるのとこしてこの山よりかへるかた 中務卿の内子

建長五年毎日一首中 あつま人のうへにのりたまそ 藤原内家

えしるのかにみゆる富士のゆきをわかるへしよりまそこしつ

貞應三年百首 日

えもし山ゆかこえてやすらへハかりのの海よりも鳴くこゑ

一百首哥 西行

猶くもよみなとゝいはつゝきかまへしの山かすさちゝなり

百首御哥　山路　慈鎮和尚

風ふけはたかしの山かせおろすにひとわたりして雁の声

あつさゆみたかしの山の南　源光行

岩つゝし詠みちもすゝす岩波のたとへたかしの山はきこえなり

此哥源波記云名河常白のさいひまたなく

山ときこえあり山中よりしけり程よ

岩波をへたれねちて岩せのたきとしく

きこえさらひ河とてひろうとまて

れさし山は高さ五分まての量百首哥

思ひきやんのすそわく外の林間やあすらひきしく人のなかるらん

その山　信乃　保延元年中納言家歌合哥

合月を　源仲正

ところせくそのゝかう山の峯風にちりみたれそめる秋の月

新古集雑哥　中納言家持

その家は山はいるそと鶏なきまに出るもさらにゆく

久安五年七月右衛門督家歌合　覚仁法師

まそかゝみその家山のすそにある花の香にほひけりみかけ

此哥判者顕輔卿云その家山とは所の名なり

きゝなれつねにちすら山のそれかやかたからん

ふみ路をたつれハ志らねともそのなや安
風そのこころへきこゆらし

つくは山　常陸　内百首　順徳院御製
つくは山志けきこのもかのもとの木の梢よりも志けきハ人のめくみなり

つくはの山　家集　民部卿家
あつさゆみつくはの山にしけきてくらしりハいかにそあらむ

永久四年七月忠隆家歌合　撰集　源兼昌
見わたせハやまひとのつくはの山の嵐のみちも
秋かせすむハつきのみやまなれハおもひてや康の秋かせそらん

浅ちちの山　駿河　新古今よみ人しらて
つきちの山より出る月けハそらそうへからされ

浅茅の山　伊賀　勝手　同
かきりなくわかふんハつけの山出てそのむつるれ

浅香の山　康平四年祐子内親王家歌合
かへりみ月乃山　加賀
浅香の山こそかくゆふぐれのをすの里まよふむそ

同　大輔
みさこの月乃山をよみかしてかのたかすかけを

はつせの山 閑中百首 後鳥羽院御製

春あさきものとかしそ秋はさくら錦つくはつせの山の高嶺

建長八年百首歌合 後九条内大臣

わか恋のはつせの山は風として たれゝ人にかへる白浪

此哥判者光俊朝臣に云右哥すこしまさりけるよし

詞きゝよくしるくそみえ侍れ但つゝきの山と

夜のうき世中に侍る宗尊のことくめつらしき

さ様にや侍らん筒木の宮日本紀にみえ侍るハ

山と思しハめつらしくかるへきことまよひ侍れハさる

右哥はつせつき侍る浪に後恩ハ殿あめの

ちかみし侍りぬるやさてハ葛城につゝきたる

山なれは風ふきて葛城人に浪をかけるこそ由

にしに蒼波路をさし出ひゆきまてのいと哀し

わかへし作者のおもひにはそむきて侍るにや

さりやうはなくし侍りしはにくくかゝりぬる

みちのさかおもく侍りけるとそ

猪山 摂津 宝治二年百首 従三位行家

はつえてゆくはふもとしらぬ雲のうへにみえてそすむの

なきるか

あちの山 那智 紀伊 玉葉集 後鳥羽院御製

久しくひすちみれは那智山にすむ月のさえまさりひかりにあらそふ

らく

百首御歌　光明峯寺入道摂政

かつらきの山雲井にみゆる岩よりも高くかゝる滝乃白雲と

雑歌中　清輔朝臣

をりはへて神さへいつも色かはりぬはたえせぬ山のはしの露

かくら山　大和　題不知　聖武天皇御製

わかせこかうしろの山の木末まてはつ雪やとかおもひみむ　おもはれと

同　笠女郎

あふことのかひしもなくはなからへてさのこまつのうへにもとる　たけきつる

なとしら山　連歌　ときは又相撲　そことへし しもせて

かつらきや千代の山永保元年大嘗会悠紀方御屏風に

あさたちてをしくまくり　前中納言匡房卿

ときはへのさくらゆくたちはなのゝやまさくらすゑもかけつゝ

かつら山　長寛　ときは　大嘗会悠紀方御屏風

ちはやふる代々つきぬことはのむかしのよまよふの山

同

よろつ代ハかくら山にかけてうこかぬ小松のちとせのかきりなく

左京大夫顕輔卿

永保元年大嘗会

槙乃葉もいろ替らてやつほむらんいくよの春をかさねきの山

大嘗会悠紀方御屏風御歌

皇太后宮大夫俊成

万代といのりそめつる御世の山のさか木をとりて

あしから山中 相模 歌枕　よみ人しらず

足もとすまれをゆくすゑのあしやまはけさ越こそあふされ

夫木集　相模

あしから山のふもとあやしきすゑにはかわれをりつるほととぎすかな

あしからの山 大和又山城　従二位家隆

みな月のこそ紀からのかへるさにあしから山のまさきのかつら

なかつせ山 又に 往字　源為憲

みな代ハあしからの山のあしへてゆきさすかにこえしいなの

あしからの山 未詳 相模 上総　夫木集

左京大夫顕輔

あしから代ハあしからの山のいはねまつちよをへいハ千世なる花の色かな

日吉社百首　慈鎮和尚

押しえきりし今あしからの山よりもひくのころさえぬらん

歌枕 懐中　よみ人しらず

あしからの山のさあしからもなきれてし猶ひさしくぞ遠きまし

遠去八年百首歌合　治部卿寛信

かりまくらのにしとをみすハあしわかれてあしからの山のくも

法成寺判官光俊前右京海陽之樗とて

鷲山の樹よりうされたる道難及洞冥斤
紙縦樹いかれる山よりの雲きたりつにあり
されと彼毛鷲山ハ昔仙人住けるとし天地也
天智天皇伽藍を建立し給ふ出家修行乃道
樹おらるといへとしへみし御門す瀧こそ御
影あれといふ

なかひら山　家集　元輔
懐しなかなかひと山の雲かれて千世の花をこそかりさ

なさけの山
（國寺雑）
六百番歌合　掃部
さしてぬなさけの山よ雲ときさしてかなしふかりの花の色
慈鎮和尚

なつたよ山
（鳥居山城）
古抄　続古今　為家
きくらしのなく声ハちりすきそなつ宮山よおもひかへ
けりたらひけるころあつ人とそそまつり
ゐ入代
おた祐そ

人のいのちなつきに山のかつこひうきあかるところ深きしとも
すさの山
（名寄紀伊）
家集抜書中
白雲のちしのうちもきちもとれかくやなかつきのみ山なるらん
兼安五年三月重家歌合
長覚法師

わすとハおもくさの山ほとゝきすなくかひもなしいつかくさハつらん

あそしこの山 陸奥 家集 能因法師

はるかなるかひはせしかとあつまちのそのなりつらきあそしこの山

梅かへの山 土佐 大嘗会悠紀方御屏風

皇太后宮大夫俊成

春の日ハひかりハことにさえわたる見えさくハ梅かへの山

ゆふくれ山 権中納言匡房卿

おなし下もえぬ林をおふりけむ雲ゐの神のたすけよ

保安元年大嘗会主基方御屏風 備中

雲山は神代文山のみねとに田ありとこそ

うちまの山 大和 萬葉 長屋王

うちま山朝風さむし旅ねしてころもかすへき人もあらなくに

うちま山 山城又大和 俊頼 永久二年五月大納言家歌合

続

君か代ハひさしかるへしうちま山の二葉の松のおひしけるまて

よみ人しらす

うち山の新撰の歌とよみ侍りて

寂蓮法師

鳴むしの声の絶々て月のみそすむうちの山もと

うちかこ山 上野 永久四年百首

俊頼朝臣

かはつとてしつかなる山の志ら雲は末の如くにたなひきわたりて

ゆふひの山 雲見 近江又大和 新拾遺集 権僧正公翁

まかけて宮ハあれとも越すさらめひの山ゆゆしくひさしき

えくらの山 宇陀 大和 仁安二年奈良公合判者

俊恵合 智海法師

さゝ志まやえんくらの山の紅葉々を隠かねしとそ梓かけ

証歌 よみ人しらす

たつ志きのとくらの山ハとも松井のや志ろのさくらに

うちよ山 山城又近江 和泉式部

久ちさハいはとにかゝりける山に夜ふかくひとりこもりける

山井ハ万葉よちいきさうさう後京極院より総かさね

に出けてきつゝきくとなくて

とこの山 駿河 建長五年毎日百首中あそさまに

そらりくみちあまて 家隆卿

みられいむつしよふらうらはの山つゝとえてとそれとに志ほ

掃十五首 院の御中 後京極摂政

志ふらかやつゝとかえくらとおそひなきゝ津の山高も八えかくくして

一字五百首 前中納言定家

時さして志る山ちのむら成ひてひかく神まくさらわり

三百六十首之内 覚盛法師

かけてをもそのはれ行かこえ出つれ木のしたくらき宇津の山　よみ人

建保三年名所百首　　侍従行意

宇津の山さしそへはれてゆくしらしとやゆすとゆくほそつての　わすれ

羇中行　　法印定修

夢ちさへつゝのうつゝもみちかきけるてまつよはかなくうつの山ふと

六百番歌合　　法橋顕昭

うつの山ゆくへくれはこゝろありつる細ゆかのりいあかれてのひ

文永名所百首　　源親子

俊成卿女

正治二年百首　　前大納言忠良

嵐吹うつの山かせにとまりしたるを宇津の山こし

うつの山たとこえつゝかなくに関守せ光俊朝臣

都人やむねゝもなかりし宇津の山たゝよのとるよ関守もなくて

続古今　　従三位為家

都人おもひもこえし志れ神無月いつよ志てまし今宇津の　中山

海道名所の中　　兼統中相臣

関もなし昔はいまより宇津の山こえ旅もや昔よりむかしらん

けふこそ路次紀行宇津の山をこゆるよはつゆハ

みしもをくすのことこゝろくまよ志かりそてみえぬ道

べ若木色もりしまはたなひかうゆやまかくし
てとこそ
菊水百首歌合　慈鎮和尚
旅つらき都の月のゆすゑにまちいてよう津の山こえ
文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成
若葉にはかすみしやとこゝろにつゝ八宇津の山をこえつゝあらし
五十首歌中　従二位家隆
宇津の山風にまとひし女郎花にまかせて松風の聲
うつゝの山打こゆる證歌之す
人丸
いくとせか都の山のあらし吹く秋のいつとかはらん
巻第六
御月のひかりさやけき都をうつしてのほる山の端もなし　證林翁
くらふ山ふもとの山にのほるとき　同
くらぶの山
ふる里の秋の木のはのちりそめてゆくへの山の端にかゝれる
日
くらべの山
みちのくにのあたりの山のさくらはな　従三位為家
くらきの山
夜をこめてくらきの山のほとゝきすなくをきくらむまちかはしらむ
国来和歌集
中納言家持

建長八年百首歌合　法印実伊

夜の雁はやわたりぬなりくらね山の秋のゆふ風

此歌判者云くらね山旦作者云旦菟知九なり

のめつらしき名所なと負歌のかきりと行けるく

兵部卿二条道又詞につきるひと津の十ま歩

道ハ雑によみすとなん

うつくの山　信乃　弘安元年百首　後九条内大臣

まれてなき人のためとや白雪のうつくの山にさえる梅え

後京家六の中　後九条入道関白

すかぬ雁鳴けそうかゝ夜くしこの山の秋のうきもそ

うつの山　信乃　勝和　よみ人しらす

かのこるとねすやうらん今宵はうつの山よりくるよね

うすひの山　信濃上野両国　月

思ひこれはよそすひの山越えはりなる月はおもそしとさやはかしう

うすひ嶺山いけのうら　月

松に吹いけのうら風さらし波によせてよするうち嶺の山

は奇山　伊勢　祝詞云二見のすととなる山

山よ人この分て遠海山よりうつ栗まて　八重海

きの鏡河とことをみしつて富士の山わのみん

しら根はあまたありて甲斐のしらねは信濃みさ
かありはまた美濃なとらの山ともいのしてあま
加賀の白山しら根乾はまたとの山すへての
しへや西は布引の山あさか山又伊賀えれた
の山ともいふその名ともしられ甲斐はあさま山
くさの方之あさま河もなかれてひらのの
しら山ともいふ山ありその山の西のふもとれ
かしこの山やおのつからすえの山ともはれる
まかりそるもあるといふ

井十山しらと
井おのの山 頭注 ゆきしつくしてかくれなむり
人のかりつゝかゝ　修理親王

結ひの井すゝの志まふ山かくこしきへてまつへきなく

卌二
志なからとりなかなか山とよそにゆくみのみなのよそ
すまふ紀　まと人志つれ

井ての山 山城 三百六十首中
好忠

卅三
井ての山よそなるかすかにみえてさそふ春雨　そのの白雲

井せきの山 仙洞 百首の中 光俊朝臣

卅四
こゝの門井せきの山の高ねより月の出船のよそさし

なせきの山代なれ
道命法師

百六
おくれゐて涙にくもるゆふくれの山のはにもあらはれ
のちせの山　後撰　新後拾遺　　よみ人しらす
同
とふかくは人にしらるなのちせの山のちもあはんとおもひ
六二
まさなくも後瀬の山のうちとけてあはん折をもまつよをそへて
九月十三夜内裏にて　　前中納言定家
曇なき月夜に出しなかめにもさらにや後瀬の山のはの月
遠集　　鴨長明
よしさらは後瀬の山のさ月やみさそはれもせしのちのあふせは
山　　祝部成茂
新拾遺六
みをこひしきをそちかひて後瀬の山のあふせの
のちせ山　新後拾遺　よみ人しらす
ひとかへりのちせの山をこえて人にあひみんとおもふ心の
のちせ山　　為人
万七
いもさせてふかきをこそのちせの山のさき（？）
山　　後鳥羽院
新後拾六
波のうちにさそはれてのちせの山のふかき
山家集　新勅撰
七日の夜　　元輔
姫こ松ひきうゑし山のこすゑはちとせをまつよ
内裏　　櫻井院

夫木
照しつゝ河代月夜のそらつくんかへるの山の紫雲の峯
かへるの山 越前 千五百番歌合
参議雅経
立かへる花たちはなのかへるさや月にかへるの山のはなの色
大宰権帥の歌とて 家隆朝臣
立かへる鴈かへるの山の桜もかりはいかにそおもはしらる
かへるの山 越前 家集 後京極摂政
いさよひの月をみしよの阿武隈のかへるさのかけ木かへるの山と
かへるさの山 大和 近江 左京大夫顕輔
衣かへしかへるさの山をしほりて…かへるの山を…しく
かへるさの山 山城 丹波 後嵯峨院入道二品親王家五十首
法橋顕昭
老の代はよそにへたてしさへかへるの山まてすかのとをみえしそれ
かへるさの山 大和 拾遺
坂上郎女
おもひ出てかへるさの山よそにしてはれ…ましのみえしなれ
かへるさの山 近江 大宰少弐慈円前僧正
白金太宰大弐大伴家持
あさゆふにいつしの雲もかへるさのかへるさの山
かへるさの山 大和 二ヶ山城氏家文嫡績示

ねさめする秋のかりかねこそかへる山のみねにかへれ

かへる山 越前 敦賀郡　よみ人しらす

九七
かへるさの山のすゑこそひさしきよそへまて舩こそとまりつゝ

かへるの山 大和 大和　家集　信実朝臣

北條八
大和山かりくのこゝろは霧かくれてわきそのよの月をさやかさ

顕昭　よみ人しらす

百五
かへの山さりともころわすれてわきそのうへに霧立 さらみか

おほやけ山 名右

百十一
あふさかのおもへは山おきたけて又おもひもとの ちかくなれ

もろこしのかへるさけ山のさくら花よりなれのこゝろにてあらね 聞書 顕昭 朝臣女 祐子しき

日吉 家集　祐挙

いそのかみふるのやしろのひかりをまつへまちてかけの風吹

永久四年七月 去隣歌合　藤原忠房朝臣

池のかみおもひけし山の月みすへてそこまよふつりめのなれ

くらゐ山 従の 二ヶ所　建長八年百首　従一位良教公

くらゐ山さそのもとかたつきぬみちあるみ代にあふよしもかな

正暦大嘗会　大蔵卿隆博

是へくきのたか砂山の玉日かけ雲井はるかにほとゝきすのこゑ人

続古今　よミ人しらす

拾集
たかさご山いつより松のおひにけんさやかにきけハ松のこゑ〳〵

家集　元輔

のちのよにかけてたかさこの山の松が枝にて見えつる玉かけの松尺のこゑ

同　桐摸

ちるのおとはひきあれしもみちまたか砂山のこゝろの松の尾の

匡房卿中納言になりてよろこひ申侍りけるとき

はしめのころ　よミ人しれ

たかさご山末はたのしきかれひとのかみのそらのかけもちぬひれ　前中納言匡房

ふし

住山松ゆ末たのもしきよはひもかれひそのゆかしさの　よミ人

天仁二年肥後守家歌合読　右京大夫

たかさご山松をひとりの松のうへひさしき雲井よりかにきこのこゑ〳〵

保延元年家成卿家歌合読　右京大夫

住山松ひとりの世の年はそて之すき志らさかへされ

家集　俊頼朝臣

たかさご山たかきしきの松の葉よりそよむかし也へと年とかはされ

此哥ハ播磨院御時一所衆として前にさふらひけるに
ゆきをまろかして松のうへにかく人とおほせ
られけるとそ

くさかの山 摂津又河内 読人不知 よし人志れ

五八
おしてるや難波をすきてうちなひくくさかの山をゆふくれにかく

名かミ山 摂津 不審

うちよする山のやまくちの小竹かりしさすまもなく

老人見花といふ心を 西行上人

おもひくらす人ハ八つ冬て昔人のなかきの山よ花はさかり

[illegible]山 花散山様 元暦二年十二月内裏哥合

元真

春やまにあらかしのうへの山よ雪ふる尽

家集 藤原義孝

すきそかれたるその山乃みかれハ宮のふるき[illegible]

名寄新中 よそ人もす

たつた山ちるさくら梅の花ひらハなつかしきかな

くらま山 岸 家集 清正

くらき山くらくみなれとおもふかなくしを[illegible]

読人不知 讀人不知

盛なりて人のまつハさくらの山かけにかへりそ[illegible]

たかさご山 播磨 大和 家集 貫之
白雲のかれ行まゝにたかさこの山の松とそみえわたりける
たきつせの山 家集 旅人
すゑまきれ行てかへるまてうきたれなき人つきのやまさやかにみえん
小夜の山 紀伊 後鳥羽院南山に幸の時
大蔵卿有家
熊野山宮居はかゝる雲の世の花とそやよひすゑ
百首の中
後鳥羽院御製
ちとせふる松のこすゑもみゆかな小夜のむかし小夜の山のひゝき
たかの山 紀伊 月
みそきゆふかれ人いつくにさしたらん小夜山さけおかされ涼よ
大二
たつた山 山城 淡路 詞花 よみ人しらす
たかはの山に夜はつきしかるも見えつるにもひかれ
摩耶たつた夜山ねのひとの家に女とともの紅葉ゝ
よみ人しらす
紅葉をかるたつた夜山のもみちはさかりの宿に梅しほ
後鳥羽院御製 読人しらす
たかまの松にいはむ年ふれとこなふまでにきさらき
いふくまれかたりの山のかけ紅葉はつくしも色とよし
くらま山 摂津 大和 家集 御形部卿

たつた山たちたてりしやまふきの花さかりとも色のみえけん

たちはな山 大和 夫木 読人不知
やまとにはちかなき山のやまひとはいかてそきみにあひみんとおも

ちかさの山 摂津 永久四年百首
仲実朝臣
こたかきやおほやまつみのわか心かよはれて摂津の山の
名をとりわかたのむかな

やのくちの山 夫木 拾遺 読人不知 人麿
はるかなる山のかすみよわかこひはさくらにしかは
やつりの山 よみ人しらす 六帖

はるくれはやまさくらかとみゆるかな雪もきえぬ山
やつりの山 正治二年百首 皇太后宮大夫俊成
万代よ君をまもりてやつりの山のあをはもみえすかくれ
建仁十首歌合 従二位家隆
やつり山むかひの里のほとゝきすこゑをきく人のなき
やつり山 夫木 大和 読人不知
木(こ)たちの山こたちもみえすふりまかふ雪のさはけるあした
たのしも
やましなの山 山城 万葉 人丸
はるかにもやましなの山をみわたせは月のかけしろし

海とをく山　未勘　新和　同

かみ神の前にのこる海とをくのひかりに代々をうつらかけ

同　　よみ人しらす

五十
あつまちへ行すゑかくるこの葉さへのこそなけれ　さかりく

五十
妹の神まさりく山の名にさらは雲まに紅葉のちりくらん此里

まつら山　名所肥前　又肥前　宗尊親王　従二位家隆

まつら山まつとしもなき松のえにいくよかゝる海人

同　　　貝新勅

まつらかた山もとさえて雁かねの月のすむらん

建保三年名所百首　従二位家隆

なかめやるまつら山ほのほのやすむらん天の戸のそと

同　　　　　　　　　六条内大臣

もろこしの浪にかゝる山松に涼しき風もふくらん

新和　　　　　　　三條王

あたにのみちかはすもとめぬさかひのひかれなかりしまつら山

百二
まつち山　名所大和　又駿河　　弁基法師

まつち山ゆふこえゆきていほりせむ

同　　　よみ人しらす

百九
おとにきくひとをしゆふまつち山ゆく人のしるへそなき

奈良花林院歌合読　権僧正永縁

君か代はまつちの山のゆふ松葉ちとせのみとりを見るそうれしき

山とり　よき人へしるとて

久さしくは君か代まつちの山よりのかくめくりあひてとふらん

久安百首　郁芳門院安藝

わすれしとこゝろにかけしまつち山すそ野をゆくかあまの

まつち山　摂津家集　後教親卿

我もさなからなほまちわひてつれなくやまつちの山の山風のおと

北野百首御詠　後鳥羽院御製

こゝろへてまつちの山のゆふくれにさそひもはてぬ月のかけよはしも

内大臣家蒲山意　法性寺入道関白

恋しともしらてやまつのかせそのかのまつちの山へいまそてらん

まつちの山　摂津山　山城　建仁三年七月八幡若宮撰歌合

山家松　権中納言国通卿

見渡せはまつちの山の松かけにまくらさしやかてうち寝せし人

正治二年百首　従二位家隆卿

ゆふくれの待つ里をやりかへる枝の松山のうへさしかた

まつのをや山　山城　山階入道左大臣家百首久主

民部卿為家

夕かけの月のあかつきは晴まつり松のあの山のうへさちの雲

まつさきの山 万葉 或霊山一説 歌枕集

重之

志らなみのまつさきの山こえくれはおほ海にかせにつかはしぬれ

建長二年詩歌合 光俊朝臣

やまかせてあけすきをみるらん又秋の月まつさき山はかくつきそみち

九月九首哥合 従三位為家

萬のこゝろの露かくれやすらひて雑の山をのおりの月

まつさきの山 不知 堀川院御百首

祐子内親王家紀伊

しらまちのあらしのこのまつちの山さはらは入らん

ゆきくれのまつちの山 真紀伊中 建久九年大嘗会 主基 勘中

権中納言資実

ゆきくれは山かけ木のまつかけにてこえくれてかたをそらへから

正應元大嘗会

大納言隆嗣

岡なからまつさき木の山にこえてひかりをもちらむ色のそらさ

まつ山 松浦市 又讃岐 歌集

好忠

夫のこゝろをまつさきのまつの山をこえかへりのあさまをくもり

まれての山 歌集

権中納言

妹か袖まきてのやまをこえてのちやまのいろかそらむ

えちの山 能不知

よみ人しらす

六二
世の中をたのみけるかなふしの山きえぬかきりは何よそなそえん

ふしの山　駿河　たかき国歌　同

六十四
天の原富士のしは山このくれの時ゆつりなはあはすかもあらん

建保三年名所百首　従二位家隆卿

きしかたのふしのしは山のみねの雪時しらすつゝやすきかへるらん

家集　同

富士のねやさき山ともいはしはかきらしあさきる雪のきゆる日はなし

正治二年百首御奉　後京極摂政

ふしの山とかれはやかて雪のひまひとひとよもなるそかなしき

富士のねはまたりそく雪はみなる月のさかりはきぬれはそのひかりそり

詠　　　　　　　　　九

長歌

あまのはらみのくもはれはうちよする浪にそ吹く

くにのそおほいそくる富士のねの名にそたつ山のいつくもいゆきをかへり

ともかくもいをいて

ひさかたのいつかとけ

三百六十首中　光俊朝臣

とらたかき雪ふりすか中よりてにうみたち山ハよそ

権大納言前大僧正隆弁

めまうけていくにかぬあつ中ちやとはさかる富士の高嶺のしも山

建長五年毎日一首中あつまにくたり侍りて

民部卿為家

浪のうへに富士山おろし吹さえてこそひとつねておりつゝ

ふくゐ山 布當 山城或大和 新古和 よみ人しらす

百六 ふくゐ山やましたすゝみまきはとくとよみてもうつへつゝぬかれさや

山　洞院摂政

懐中六 いつきの宮のしたにわたしてふくゐ山やまのすゝみまきは舌もとく

ふくゐ山 二上大和 又備中 長和三年九月影供

歌合 新後拾　太政大臣家

月のいてたつ山のこゝろをはなすゝめもわけよそなへて

大嘉元年八月新家影供中 風の歌合

二上山　よみ人しらす

玉くしけ二上山の峯よりかつらおりつゝ松のおもひにけり

新古和　同

百十七 立つ雲くらき山すそ明かりのあとかれき月のかけは

ふたかみの山 元永元年正月中院入道太政大臣

家歌合　右京大夫顕輔

雁の峯や都の山の雲はれて夜半にいてそめし月の影

新古集　中務卿のみこ

山の端もゆふかすみしてふたかみの山ののきはの月

くもりなき

名所百首中　源光季

続千載
あさもよや紀の山まちはるかにみゆかりなくば

在志への山　紀伊　熊野山　古肩

民部卿為家

こころ世はみつるやさらん万代の山は志つかに君の御代

あれさら山　讃岐又　又備中　よみ人しらず

風わたるこえ志の浪をしまて人よふあらさら山にこゆかそ　おやうる

あさあ志の山　山城　永久四年七月忠隆家歌合

鹿　源清国

折られれとこの山のさくらのしたにさくれはのこるのいてかは

かつらの山　名見　讃岐摂中　讀人不知

あふくそのみつしの山を入ぬれはくらんぬよしのもてわきそら

二むら山　二村参河　又丹波尾張　天仁元年十大嘗會

在原宣経

志はらさしむら山やかすみもおなむ女のあれしものもえ咲きる

弘安二年　皆根山　奉納百首

安嘉門院四条

まつすれは又あやめもおさわし二むら山の下志のの糸うへ

宇治
郭公　佃山　橘能信

附るかさしらやまおそくなかんけりあやめのさしはくら山

右京経衡

われもちくさの色の里はなりねらんかくてしくれ山代へきて(こゝろれ)
此哥ハ二しくれ山代ふもとそこちくさの色のさとある
ゆりて、もかとそこ、

東ニ入てうつるあかて　源兼行

むらさきのくもしらむ山の風あらしとあけやすき心ハ源氏之
此哥路頭説云段のうちよ二村山よかゝりて(こゝに)
山中なとこしすなる程よひとしかしと云々
とて海の地りてやわかれまとりなるとも
色もひとつかにて山はつゝさくるかとしよ尺
ゆかしさに

かつら山　夫木　六帖　三百六十首中　好忠

あきすゝしかつら山かけてふく風のこゑはしとなきさわくそ(めらる)

題不知　よみ人しらす

一
いそのかみ布留の山なる杉むらの思すくへきなかなる(あかなくに)

長治二年百首　前中納言匡房

花のころとそれかく折りし乙女子か袖ふる山のさくら咲かな

くらこの山　夫木　又云あ　三百六十首中

好忠

高根山ゆふこえくれは山色も秋かけて雨かれねとよ木葉ちらし

題しらず　よみ人しらず

六一 をとめこか山(?)のまくらねかすかにそ(?)明ゆく月をまちよはる(?)

六二 志らはまや(?)みかさの山の月かさし(?)あらはれてこそ(?)まちわたるらめ(?)

続千載集(?)家中(?)　正三位家隆(?)

神代よりいはひそめてし(?)尾上山いくよ世神の宮つくるらん(?)

姫咲山(?) 丹後(?) 永仁元年悠紀方風俗歌(?)

前中納言定房(?)

萬代の子のし咲山の松にまつ(?)千代の秋をこそ(?)へて(?)見れ

月　後京極摂政(?)

ふりさけて咲山のはにいつる(?)月てらさん(?)千代ふ(?)へきこゝろ(?)そ見(?)

かくの山 或大和 山城(?)　洞院摂政家百首

常盤井入道太政大臣

御かくの山榊葉の常葉にかはらぬ(?)[illegible]宮居(?)の浅(?)波

建仁元年千五百番歌合　寂蓮法師

きさらき(?)の[illegible]今八十まりてや[illegible]

ふし山 丹波又出雲(?)　文永十年毎日一首中　民部卿(?)内家(?)

雲かゝる伴咲(?)の[illegible]ことそ[illegible]ふしの関山

海人藻汐(?)百首　兼成(?)内相(?)

里つゝき志賀の難をあらそひてみちとほきつゝき志賀の中山

中務卿のみこ

ますらをか霞籠の枝のしたかけにしはしすゝしき志賀の中山

夏旅　　同

年へたる松の木陰に駒とめて久しくすゝむさやの中山

建仁二年五十首歌　関路花

後鳥羽院御製

志賀の山風もたえぬ雲の庭のとくしはなしまさる　新勅

嘉応二年十月法住寺殿の会関路落葉

修理大夫

ふもとの山ゆきもおなしくちりしきのとこにぬ雲のうへ　新古

志賀山越　続中

よみ人しらす

春ことにきく山の鴬のなくねにしかす鳴そかけらん

二雨の山　秋　古中

恵慶法師

秋

あふさかは世の二雨ふる山の紅葉も秋はちらぬまにつゝ

ふちさか山　若狭　丹波　新古

好忠

さくら花ちりぬらんやま遠くにれつゝかちさかの山

二雨の山　備前　能因

田邑丸

二雨山は峰も秋のつこは絶りとも尽きこゝろゝかな

二見山　山城　土御門

信實朝臣

五十六
こちらふ山あるハさかしくちなしのやとかりそめとこゝろせん
このもと山 新古今 よこし人志らん
かつしかのこのもと山のまき葉ものらぬかすのよはいつはりいへは
こせのさ山 家集 備中 附寄
俊頼朝臣

なれきつゝせのさ山の松ふれはあらしもしのゝよはきらなき
こちらせ山 為家 備中 正三位知家卿
拾遺六
ちよふるもよはひをかさねてすむ子らかちよせの山はそのなかちらりそ
みのさ代山 浮法 紀法 百代
十五
海のむかへハたちかはるらんこのさか山よ昔にハかはる
まつもてよ山 伊勢 山城 よしや人しれ
備中
きそみちのおもてのなかにまれハかちならひめくさこゝろ もその山
ことひきの山 伊勢 日
六二
備中
いはまのちくまのさハみのさかしらへしのひきさ山のむかのきく えぬ
さのまくらそひまの山と人ハいへともあはしくいてとまらぬとしの
いくさの山 家集 祐峯
せきの海のなみよせてさかひにかはや夜さのゝあさの山
こまつの山 小松 家集 俊頼朝臣
いそきてあはたちをよさきのちりんこまつの山のすそ深の山
ちらうさ山 奈良又備中 新古今 俊恵法師

玉葉
さゝ浪やこゝらの山の雲わけてあしたの奥に月ぞちるらん

こしのしら山　越中　歌集　安法法師

こしのしら山の紅葉の錦しきは都かもしられぬ海はから

堀河院御時百首　隆源大法師

若菜つむこしのしら山ふる人は来ぬ事またそへたるなりけれ

こしのしら山　此歌或説ニ越の白山と別ニ詠也　家集家持

従二位家隆

冬の夜はこしのしら山の雪しろたへの夜とさえわたるかな

こしかへる山　越中　能宣

よしこそ人をまつらす

玉葉二
こしかへるしの中山ゆきさえていつれの日かふもとをはらん

こしのかへる山　家集　西行上人

道まどふこしのかへる山やそこつりへとひさまちつるかの　かへる山

霞中帰雁　同

かりかねのたのむこゝろをまかせんこしのかへる山ちすまつる

あひの山　山城　建長八年百首歌合

従二位家良

をしかふすあひのさかつさやかにひとりふる山の名をしらん

此哥判者光俊朝臣云左哥しも海藻よりは

まことにかへりつらすさこそかよふ彼あひ山は

古詩云和尓跡し恋ノ思ニ命下る上和尓

明玉曰女令下以石室ニ在ニ将会而悉於云意
山近とみしかりしをといはしの外のはまくらむら
はかりて名残さくらさ濃之あけしのちらりひち
よりり白雲かり浅山と共にひのちれ浅ことを
共りひてとハくられて御返しと名付く歌也
徒ハちらひてそ御へさとそ云く

十八
あさくら山 安積 陸奥 類字名
時まちてみつのしるれの葉やさてあさくら山のもろひろん　市原王

同　家女風

第十一
あさくら山かけさへみゆる山の井のあさき心をわかおもはなくに
人よたる女かな　仁和旧製

や
あさくら山あさかる雲の風さそふたなひきわたれハおもかけに

同
あさくら山 八雲ニ清ア 大和ヌ国防 類字名所
あさくら山のいとうきぬきのみうりたしのやまさくらんおもふ　ことさま

十五
あさくら山の峯にたつ雲あさくらけさ津井またれさめつし やまさ

同
あさくら山の峯にたつ雲あさくらけさ津井またれさめつし　湯原王
十四
あさくら山とよこころ浅雲のいちさくられとさそして今　さくられ
大伴坂上郎女
泉落書山か白雲
千里
はるのまつさき山よりわかちくられハさくらもさく雲とみゆらむ
つ

康平四年三月祐子内親王家名所歌合　あふ坂

みちとせはいそくさりせはあふ坂の木のしたかけはいそくよくちうきは

左衛門　佐實親王

百六十二
吉山とみえよこそそれきのつゆのさかりのかさしさ　よみ人

あしほ山　常陸

百十七
ほくちるよのそらひとつにあかあしほの山あしかとたかきさかのみち　よみ人しらす

あさくらの山　若狭

三原王

ちつる露はうつしこそかはりのもみちの山の木のさかりはつきぬ

千五百番歌合　大納言通具卿

かつらきの山のかすみのたちかくれはなのさかりをそことさへみん

建長八年百首歌合　従一位基家卿

みよしのの花の山のよそにこそよるさへてる花をそ見よ

光臺院入道二品親王家五十首　正三位知家卿

桜やこそはつれなき常盤木のあしかなの山よ風かくるらん

あしから山　相模　源家長朝臣

百十三
ころもさへあしからの山のふもとにはあらしのはらふ木の葉ふりつつあかすもみちを

同　よみ人しらす

百十四
わかせこをやまとへやりてまつしたすあしからの山の杉のこのまよ

足柄のやへ山こえていましなはたれをかきみとみつつしのはん

洞院摂政家百首歌　従二位新民卿

雲さえぬ富士のすそ野を捨てゝなをよそにゆくあさくまの山

貞永二年六月名所百首　民部卿為家

春のよは山さえしはあさくまのけぶりの雲ぞまれにこそみえ

家集

あし原をてらす八百よしつあさくまのけふの岩のかげ哉

貞永三年百首　民部卿家

もえ出るを浦ふかけちの雲るかれは雲にこもりふむあさくまの山

あさくまの山　安濃郡　伊勢　よきひとしくす

ありしそのあさくれの山のかけのその山のかりしあよくへめく

あさつま山　紀伊　近江　人丸

草

けさゆきてあすはこむといひしこがあさつま山にかすみたなびく

おもひつゝあさつまのまうしきおもひつゝあさつま山にかすみたなびく

嘉保三年三月花山院左大臣家歌合　藤原顕房

霞たちて春はにほへるあさつまのくもせ山にかすみたなびく

正治二年百首　後京極摂政

あさつまやまのは山にいつも白のひかりまさるさくらなるらん

あきしのの山　秋篠　大和　家集　寺名　西行上人

秋霧はなかなかのうしよによこよあきしのの山にかすむ

あさくら山　備中　貞應元年大嘗會　備中國

前中納言資實卿

秋河遠みすくしるゝ明日よりはあさくら山のまさきのかつら

あひ川の山　合津　陸奥　題不知　よみ人しらす

三たひしてゆふしものまきあひつ山いつより雨とふるとしは

かしこけのあさ山つらみちもわけひとりもの思ふせん

六帖題　民部卿家

夫木廿二

まつこひはあさ山のあさつら夜をまちひとり海さひし

三百首和哥の中　中務卿のみこ

月影はあさ山風とふきさしてなをもまさりつる

雑哥

あさ山の中よりいつるたち河のいとをしきせんやすみさし

あさち山　安房治　對馬　題不知　よみ人しらす

一夏

ちゝ母のうつりはしのあさち山ちそれの夜はまよふそなら

弘安元年仙洞詩哥合　仙家勝趣

後見のすさ中代のあさち山いつの月日のかけのとけ

従二位範氏

ありま山　夫木　備中　久安百首中　盛成

夫木

ありま山ともあつましきともとしれなくそへし松のちとせを

ありま山　摂津　雑哥中　太宰大貳基氏

三百三
津の国のむこの奥なるありま山ありとはかりそ見しほとそなき ふるひく
読人しらす
百七
志かのうらのみなとのしほけはありま山なりかくらさへ[illegible]なくして
家集 法性寺入道前関白
拾葉
ありま山すそ野の原に風ふけは玉ちる露のかこゑの花 あり
ありちか嶋山 淡路 備中 左京大夫顕輔
いなせ人ふかひもいはてさえぬ露と[illegible]たかねのしら 嶋山
あはの山 阿波 よみ人しらす
百六
まつのこと井にみゆるあはの山かけてこそ待とあへきを
あらち山 近江 越前
人しれすあらちの山をこえてこそ[illegible]の[illegible]
建保二年名所百首 正二位忠良
やすらはて雲[illegible]風やあらち山こえてゆくさの[illegible]
家隆 二年百首 民部卿家
あらち山雪も日すまにあつまくは木末そちらす[illegible]の桜
寛安元年八月仙洞歌合 判者清輔
紹介 よみ人しらす
このはなはあらちの山は縁なくてすゝの[illegible]のさきかたし
家成口家歌合 山花
源仲房

花ちるあらしの山はさむけれはこすゑのすゑにきえしなは
此歌判者基俊ノ指ニ其色をしらぬ如くと
申あくむのいちらしや花ともまかふちる
てくるかりてくもく

十二
あしき山　西本　後京極摂政　よミ人しらす
あしき山こすゑにそつもるあすよりはやまきさかれて
風中
うきことをしけしけつくしのあしき山なけきこりつむ年やへぬらん
いくらのあさかれ

あへしま山　西法　大和　同
十二
たくつのあへしま山のゆふきりにほはせんやさしきこなの

あつさ山　粟田　同
あつさ山かしこもとしもことに花おつさりはこくらきうり
みちのひとつの山のあつさ山かれぬひこし世代を
あつさちかゆきつゝあつさ山人よりこえてきてとこえし
正月十日白河ニ院おはしますさはの稲源中
ねのりに　堀河院中文上総
かきそみよ霞やくさはなるひくとあつさの山にすそひこ
あつさの山　愛宕　讃山緑　後京極　よミ人しらす
まちたちは彼のあつさの山あれやさひしと我ゆく人のいはらん
家集霞を　中納言道房仁
あつさ山まへくるゆきもさらしあかくれしきさもかゝりの

述懐百首中　　　　　　後礼部卿

まれに人はあくこの山よりすみうきまし枝のこゑさけ　ちかのとや

あさ雨山　猿の　歌集　　　民部卿家

いさ浦に何とてかりのあさ雨山あさましらなく声のたてらん

あくら山　慈鎮家百首　みそおち　　　同

又二
こゝろ岩のあくら山そやけてやすくは人のすむましらのよや

此哥中日記　　　中務卿のこゑ

猿のさくあくら山松しまさえてくるのこゑやくかあは雲らかゝ

題不知　　　人麿

六三
すくのきは深みしませは猿のこゑあくら山中ましらなくなりすなり

あかさら山　五歌集　　　源仲正

とら丹なるあかさら山のさるひをたむけの花よきれはきさそ

後京極摂政家詩哥合羈中眺望

光明峯寺入道摂政

おほゑのうしをあかさらこしてこゆる世はかち山はるまとのとをくなり

猿之和　　　よみ人しらす

あかさらの山の猿もそなくらんなくはましらのこゑそ哀なれ

長哥

ましらく爺のうちはらそ都もあすは　あか猿山のまちかくさ

いとゝうきにきこえよ

あらしの山　山城　新古集　　西行上人

いつよめくりあふへきみちのさそひあらしの山路をしいそなん

此哥ハいにしへ物語せさりけるそのかミ法縁によりて寂仁法師と物語し侍りける時のことく

によみけるとなん

保延元年家成卿家歌合　藤原基

高松院上総

ときはなる松よりハ紅葉によあらし山そのいろたのもしよちり

此うた判者基俊云右方のあらし山といへるそよしにたり

そのゆへ字たらすにしてまことしきなりそこのしかのこと

もみちはよりて侍りけれ嵐山をとよまれたる

のいろ侍る、つきさやかにもなし、法々なしと

いふ山よのことろくハまた侍るかの山ハ西海

歌山なれハこの地りてのありてとよまれ侍り

なりとなん

建長二年歌合首山前大納言雅経卿

ときはなる松よりもとつれてあらしの山にあきの風

あさ日山　新古山城　夫木集　寿永三年九月歌補合歌合

合新葉集　　　樹賢法師

あさ日山てる紅葉のあかりにハ松のみとりも色うつろひけり

さうしの五十首哥合　宣陽門院越前

万代をひかりまちとてあさひ山のどかにすめる初音の声

名所部　光俊朝臣

（新六）あさ日山たむけにすゑし仏田井もちくへすゝきは河はさにごり

家集　實方朝臣

朝日山すそをうけしかたすきあけて風の代いのかきは

あさひ山　大和　名所部　よみ人しらず

夜とともにありせハあさひの山よりひかりハかさねきよしとも

けふ八経若の鳴瀧の流ゐとまん

堀河院御時百首　顕仲朝臣

秋霧の立あさくら山にかけハちりてうつり錦かゝりつゝ

あさくら山　筑前 大和　家集　西行上人

嵐山こけのむしろのうへにして雪りしくものもちこそすれ

あさひの中山　日

あさからぬあさひの中山雅世のきんのかひみねへてそあさ

あしくら山　肥後　右衛門督内大臣

ゆふ暮のとたかの山もちはて連ぬあしくまのこまに雪のふれハ

あしくらの山　紀伊　さうしの五十首哥合

後京極摂政

むかしハ三月の空にかゝりて月をのみまちてかきくもる明のか

道家卿家十首中　　前中納言定家卿

てりかゝる紅葉か上のひかりにかくまつ月そてらすをくらの山

百首歌の中　　同

夜ふかき嵐の松に風ふけて月かけ清しをくらのやま

名所百首中　　従二位為實

たの光の月より嵐はおとしられてをくらの山に秋風そふく

をくら山　国未勘　家集曉附属

中務卿のみこ

ねくらのあか月山のはにくまなきされまたれていくよねさめの

わしまの山　未勘　法橋和歌所洪一百首　　後九条内大臣

秋とむる入江のさとのをすゝきにみさへ萬しの山の秋風そふく

わしまの山　建保七年顕範家千首　　左京権大夫

都出て今日ありあけの月とみれはなこりのうしまの山にさえて

あつさ山　未勘　三百六十首中

好忠

あつさ山みのゝ中道しくれけり里ゐる秋のいろにまさり

藤原範綱

天津かせかすみそめけり宿の月みつきの山にあきふかみとて

此哥ハ六月ばかりに筑紫へまかりけるに
あつさの山路にて雲の晴けるをみてよめる
おなじ歌に秋まつ月とよめるにて　月
みなつきのあつさの山にいる月の影まちかねる秋の夕ぐれ
あさくら山 筑前 名所　かくしひたる人にしのびてまかりて
権中納言通房卿
くちしあさくら山のまろとのハさくらぬ人もおもしろきぞ
山 六帖　よみ人しらず
むかしみし人をぞわれはよそにみしあさくら山の雲井はるかに
百首哥　後二條関白
まだ夜より秋をあはれとながむれはあさくら山のこのまもる月
あさむつの山 越前　前大僧正源恵家歌合
覚忠
浅雲よあさむつの野を山をこえしさきだちおなじ道そまよへる
あさくの山 備中 名所　よみ人しらず
秋の色ハあさくの山のうすき露いろこそかはれうらめしきそむ
あつちの山 丹後　同
冬の夜は月ちかくよする河ぞあつち山にいるかたもなし
あさくの山 秋田 陸奥 家集　好忠
みちのくのあさくの山は秋ぎりのたちの絶間もちらぬもみぢし

あふくま山 陸奥 題不知　よみ人しらす
もろこしも人のことゝはきすれともあふくま山のかひはそらなき

あさからけ山 大和 夫木　同
あさからけ山は世のをとも桜ともしらぬ桜にまかふ白雲　よみ人

あさくら山 相模 備中　同
ちはやふる神ありやまの木のまともいさのむしひゆくなれはかひなかれ

ありま山 文治元年 内大臣家百首歌合 菊山　盛忠
さ月やみそらにまかふ色みえてありま山まてつゝくなかせ　よみ人

おくしほ山 題不知
ふかしほの山のはなれてかそふるまきのとつるおもしろ　よみ人しらす

さやの中山 遠江 堀河院御時百首　大納言師頼
嵐ふくこれの音をとなりにてひとりかさねしさやの中山

五社百首　皇太后宮大夫俊成
まくらかしのよるのなかさもさやかにてかけもかたふくさやの中山

摂政家百首　後九条内大臣
たのむかなこの今そしるへきはさすかにもあるくらしさやの中山

風雅集羇旅歌　鎌倉右大臣
たひねする夜のつゆけさそさなへの世のたのしさはれはさやの中山

永禄二年百首　　　　　　氏真

思こゝろみちの世をすて越りけそくしきわけまよふ中山

菊川宿舎山館涼　　　　為尹朝臣

やすらひはみちゆく人もすゝむらん松かけるさ世のさや中山

名所三首之内旅宿風　　寂蓮法師

松かけハ都なりけりのこゝろねよ松風さむくさやの中山

正治二年百首　　　　宜秋門院丹後

思ひねの枕にかよふ松風に夢おとろかしぬさやのなかやま

洞院摂政家百首　　　　従二位家隆

はるゝゝとのほりつゝゆく白雲のさよの中山わけそ海は

永禄二年百首同様　　　従二位為隆卿

露しけきみやこの小篠をかそへて入るさよの中山

海道宿次百首　日坂　　参議雅有

名にしおふさやの中山あつまくに越えし中てかりこゝろあつまへくたりけるよ　　安嘉門院四条

くらくらとすみかの里は夕やみに松かせとをるさやの中山

十六夜記云　ひるたにかゝりてさやの中山を越ゆ

ことのまゝとかやいふ社のもみちいとさかり

におもしろし　山かけにて嵐もをよはぬなめり

ふかくあれはをちこちの里ときく河よりは

よつてまかるとて

東よりのぼりけるに　源光行

みやこにもふじのけぶりとみえしくもにまがふとふきさやの中山

此哥源光行記云さよの中山はさやの山とて松杉茂りて木暗く道はさかしき山にて林の気霧もしげく谷より峯にのぼりうちみちたちまちてふかく入ありて鹿の音聞えてまことにあはれに出の

うきこともあはれなりしとぞ

寛永二年百首　光明峯寺入道摂政

きえぬまのさやの中山あさ霧もふりにし夜の露はしぐれて

建保三年内裏百首哥合　順徳院御製

木の葉はさやの中山ふくかぜにしぐれてそむる夜の嵐もさむし

同　正三位知家

わすれじなよの袖しほるなみだにかへやあはれのさやの中山

同　藤原康光

うきをさやの中山こしくれてたちかへりつゝ月を待なれ

さくなうこのまはれ山あれすへ人あつ寸

三

さゝ波のさほ山ゐりはさほかまの山もまほかりなきてあられ

さほ山　大和

石川足人

さくらけのはかえんとおとさるゝのまほ山の花はちりつゝ

云

歌集　人麿

なつくさに鳴さゝい山の松の葉の緑とかはらぬほのさかな

さゝら山　淡路　山　万葉　よみ人しらす

たつ鳥のさゝら山の松かけにやとりてゆかんよるもふけゆくを

堀河院の時百首　修理大夫顕季

白とりの鷺坂山をこえくれてまさきのかつらに雪ふりにけり

さつき山　摂津　万葉　人麿

五十
さ月山卯の花月夜ほとゝきすきけともあかす又なかむかも

さ月山花さくら我身はかくしても河よりあへる波をみるかな

さゝめの山　淡路　同

ほとゝきすあかすやすらふたちかへりさゝめの山のこのかけになけ

さつき山　佐伯　摂津　よみ人しらす

さつき山卯の花そしあかねさすさらしつりてかもひらぬるも　廿イ

さゝき山　佐紀大和　左注同　人麿

手をたにみさゝの山の月もそなかめさき山のさくら桜のちるらん

哥合　よみ人しらす

五三
あさ霧のはれぬかたのひとつやまさきなるのさゝくの山はさ夜ちかきあけぬ

さつき山　紀伊　赤人

ほとゝきす鳴つく初声さへきけはさ月山のさしてさく

さゝれしの山　出石但馬　丹後　歌集

能宣朝臣

君か代の千とせのかすはかきりあらしつもりたりけるさゝれ石の山

さやまし　権中納言道房卿

さ夜しつかに野辺の玉のをあつめしれはさやま山のすゝむしのこゑ

さやさ山　周防内侍　又範家　正治二年百首

式子のみこ

あさましやさやの山のほそきにして月影さむしさよの中山

さくらの山　小竹生　文治六年　衣笠内大臣

嵐吹さくらの山のよ桜ちらぬ花色そよるすつりし白雲

さくら山　桜　大宰年會　又春歌　川庫に篇

みよしのゝさくら山の花さかりちらしもいまはあらしなりけり

久安百首　上西門院兵衛

桜山木すゑの雲のはれぬまに花のかをりそそらにこそ見る

さゝれの山　後京極　又科　千五百番歌合

後京極摂政

忘られぬまつ世をおもひかくれぬ月はいてこしさゝれの山

さやか山ふくよあらしのさそふかたに

和泉式部

秋しおへたにあくらをとゝめやさやか山かけはいつる月かけ

さゝいのさゝ山　仲中　嘉禄二年正月庚申歌合

霞　よみ人しらす

春のくる夜のまに八重にたちこめてさやの中山峯の霞よ

さやの中山　峯　かすみ隔山とりかへとも

大納言経信

梓まて霞の衣やさそふらんかすみふかゝらんさやの中山

弘安元年中務卿親王家百首

権僧正公朝

白妙のちこ夜のさよ人こゝろよきさやの中山風さむくして

久安百首

前参議親隆

さかりまてみしよそめのさやの中山わかれなん

きさの山　紀伊　但馬　大和　よみ人しらす

きりめ山みちの谷の鶴そすむかのうへにても妹にあはなん

きさ山　象　大和　神亀二年五月幸于芳野離宮時

赤人

みよしのゝきさ山のまの梢にはこゝたもさはく鳥のこゑかも

永久四年冬百首　兵衛仲実

夏秋のさかひもしらすにほふなりきさ山かけの松のしたかせ

建長八年百首歌合　従二位行家

大和ちよよしのへかよふあさかせのきさの中山雲かゝりして

きさかれの山　其花　歌枕　大和　よみ人しらす

思ひきやわれの山よかくはかりまつへき身ともなりけるかな

洞院摂政家百首　従二位家隆卿

暮ぬれは思ひもえなし思ひきやなれしの山のかせのさむさを

をぬく山　陸奥　三百六十首中　好忠

春こゆるをぬく山のなみまてにたちくるこそ雲のかゝる

家集　同

みちのくにをぬく山のこまてにもこゝろにかゝる雲のかゝるか

をふ山　家集　能因　大宰帥大納言

いはくらのをふ山のたかねはしらくもかゝりにけりとみえし

まき山　山城　文治二年春能信歌合　慶言

まき山のあらしにちりしもみちはのいろもさためすなりにけるかな

秋歌中　賀茂成助

秋風のふくれはさらにをくら山まつにかゝれる葉も染まりけれ

ふもとのこのまにみえて雲なかにさくら咲く

こほりの山　中納言家持

さゝなみのしほりに立てしるくにしめゆへばひめしろにこそかへらめ

こまつの山　清輔　山城　家集　人の国なる女に

まつの山なにをかしつれはまつかぎりなきこゝろとのみなるらむ　元真

ゆらの山 花一本 丹波 家集 従三山松代
前中納言匡房
ゆらの山梢のまつの松風はふらすは人も千代をまつ
ゆふらの山 六百番歌合 恨
法橋顕昭
ゆふら山松の葉風はうらそひてたえぬのなみをこと記 まろうと
ゆめ山 甲斐 懐中 歌林
よみ人しらん
旅人の跡つけしやゆめの山代をかけてひきわたりつゝ
ゆふの山 安房 同

かりいりの河八十人かしこき国のゆふの山峯のくもゐて そいへのあはれ
しからかりけりかくれゆふの山に雲るるかくし
家久元年百首 入道前太政大臣
梅ひらく花より後のゆふ山に又雲かゝる峯のまつのあさ
みる山 山城 摂津 建長八年百首歌合
後九条内大臣
明ほのは里あれのうちみる山みねのそてには月そやとれ
為家百首
家女郷臣
ほとれぬやうそのこゝろ招くゆふこの山の月
家集 後鳥羽院下野
みる山むしく庭色しくそ風のさわりよふ山のくれ

ときは山　山城又近江或大和

題しらす　よみ人しらす

むかしはけみしろとし山代経にしられりしかとてまきの葉

家集　貫之

わかちへしよそふくゆけ錦秋まてのこしろの山よ山かへりせん

山　よみ人しらす

六二
世中をしらぬいまとひし人は秋ならはのこしろかとなりつらむ

永暦元年八月清輔朝臣家歌合

資隆朝臣

此宮山ふりしよむかしつとめしは秋の

建長八年百首歌合　衣笠内大臣

雨さそふのこしろの山もとうつろひゆく時雨にまつ秋の言の葉

文治六年百首中　好忠

ときはしろ山木葉もみちしあふくられにとまらぬもみちきさ

題不知　よみ人しらす

五十三
月も日もうつりゆけとも色かはらぬみしろの山代とうつらふ

同　光行

秋代はあまいまをかれはとなかひのみしろ山のさうちまて

春雨さらもゝさかれは人の年まで秋ならはの常盤秋の

みかきの山　山城又近江又紀伊　文永十年毎日一首中

民部卿為家

廿 ことしさやうにみえてさしくるやみかさの山のはの月は

百首歌中　藤原為氏

春日すむ都のまもりのみかさ山つゝきの神とあふかれよ　ことよ

みかさ山　三ノ三十六和　又飛鳥井に　範宗家　安嘉門院[illegible]

三六 おもしろくみかさの山にさしのほる月のひかりにあかすけつ

同　よみ人しらす

三七 わか君のみかさの山とおもひしはそ[illegible]のさや

永保三年十月禖子内親王家歌合

源頼綱朝臣

三 みかさ山[illegible]月

[illegible]集　大納言公任

名[illegible]富士の高ねにおもへみかさ山てらす[illegible]

新拾遺集中に　九条左大臣女

三笠山ひかりを松[illegible]みかさ[illegible]やまとわけの宮

月歌中　光俊朝臣

さやかなるみかさの山の松風にかすみもはれていつる月かけ

高円山　三　大和　三宿　よき国まて　顕国王

七 高円山と[illegible]色かくすこゑはなところもあかつきの空

建長八年百首歌合　前大納言[illegible]朝臣

跡もこれのさかしみもろつき三輪山のさかハ嵐されし

前摂政太政大臣家歌合　寂蓮法師

のとくすむ月の雲をまちわひそいさ見むなをのまつのやまもと
亡の松尾

雑六中　藤原兼澄

拾遺六
松への山いまはちとせのはしめなりけりせ世

松尾

素性法師

我れハ松乃葉らさして三輪の山にまつらはこ松そ
からうし

みわれ山　山城　葉　葉　恵松

八代
三笠山をとこのさすうちのはる月とよ

二しかのやま

やへし山　大和　素性

かゝる花もかさそふこけ山のやましたにちる花のよしちらん

三輪のし山　陸奥　催中　同

我こそはまれにそへてみたはしもとの山にハはしれ
ちかす

みかけの山　出雲　山城　葉　中原師光朝臣

拾遺六
そのかみにたとえけの山のまつもくハみかれの道
このえる

光明峯寺入道二条前家五十首　法印覚花

西園寺入道太政大臣

みかけ山卯花月夜つゆそうてまちやらうやの卯花の
かけさ

みかさの山　三笠　大和　葉　人丸

みかさの山かけの法をまたたにとかきよもうき
たし

こゝしの山 名見 読不知 よみ人しらす

きくとてもはつくしはしまつ世のみぬしの山のなけきとハ

みつのお山 水尾 山城 月

ちりつもるみつのお山の松風を思ひしらすや流るゝそこく

みゝなし山 大和 耳成 萬葉 ？大原？

かくれぬと耳なし山のくちなしのひとつことすなはちすれ

みゝかの山 耳我 大和 よみ人しらす

みよしのゝみゝかの山にときなくそ雪ハふるといふまなくそ雨ハふるといふ

みふねの山 三船 大和 拾遺雑 時代不知

弓削皇子

たきのうへのみふねの山にゐる雲のつねにあらんと我おもはなくに

堀河院御時百首 隆源法師

こえわふる人のこゝろの山乃おもひのことゝ山によるはなるかな

五一 みつわけ山 水分 大和 読不知 中納言家持

あらたまの年のはしめにうつりゆく水わけ山のうくひすなれ

月 よみ人しらす

五十七 神さふるいはねこゝしきみよしのゝ水分山をみれはかなしも

このゝ山 黒主

六二 この山はちとせのさかの山なれはしけきのおかしのありされ

冬哥の中 よみ人しらす

五代
この山は四方よあらしのふきおろしにはよのあやしまにおよ

百首歌　従二位家隆

拾遺云
この山乃五つの松陰につもりてそのおもひよおもひあかしてゆかん

山　源賢法師

ゆくさきにありかし世よりこの山の月をしはるきし

承元元年撰定百首　前大納言家

この山よつねさかなき中にすむ人てんのひかりのおそなつかしぬる

實方朝臣

水ぐきのあとのこしかたのつゝこのみやまの末そあるらん

此哥ハ義清のかくるりうへの世よひく
文かりけれとも世をのかれはしよそてゆり
かなとこそ

みちのく山　陸奥　家集　光俊朝臣

みちのくの山よそてくひよ見れは世はあつまのえそやたへの　白雲

此哥ハ康元元年十二月康光ほかよまうてゝ
讃よいそく道をすゝに良よおもひて雲の
さしきよりつる山の月のかにみしるはかなるは
そすくるん僧房のとやまれはとゝまりにこく
なる
雅よ契りひさしきまてよみるところ

こわた山　三尾云近江　云壇院

民部卿為家

冬
こゑ山やそ峯のもれ紅葉のかつちるにすそもみぢする　よみ人しらず

こしの山　三河又近江　永保元年大嘗会主基方屏風　前中納言匡房卿

時雨つゝこしの山のもみぢ葉はいくしほりかけし錦なるらん

こゑこし山　見万葉集之播中　建長八年百首歌合　光俊朝臣

都こえてみなこえし山の錦をもやさけもみしとさらはなし

みのお山　参河播津　家集　躬恒

みのお山雲ゐのけつらん峯の居は松のひくさを見る花の　しかし

昔みしさこのおのたくのすきたもとにさ(や)けるなり

すゑの山　丸岸　家集

峯のへもりつりさゆる峯の霞の

まつ雲松まつつて　西行上人

まろさ浦のやまぶき嵐の花のちるらん　山里

みすゝの山　能登　よみ人しらず

ゆくさんとさそひ出しの山路をのぼりなんなれとも

みやさんの山　武蔵　家集　中務卿のみこ

地の色もいまこそかはれやさんの山嵐さしく雪ふりつゝ

山　かさね　兼敬

春さしいる世のすそかさそかけてやさん山(の)つか(ぬ)

こそりくこ山　家集　恵慶法師

つれなくやうらみはなくと鏡山よりつらてゆき

みかみ山 見之関 読人不知 古今和歌集

百九
ちはやふるみかみの山の岩ねかはちよをかさねてかはらさりけり

同 よみ人しらす

百十
ますかゝみみかみの山はみかきのいろこそ露にやとさすそ秋のこゝろ

みかもの山 下野 万葉

百十四
志もつけのみかもの山のこならのすまくはしころはたかけかもためむ

同

志かの山 近江 滋賀志賀

百十六
志かの山いくたひこえてあふさかのふみすての山とみつゝゆかむ

百十七
さゝ浪や志賀の山路のつゝらおりくるしき人にそれやとはまし

東国紀行 前大納言源通親

志かの山こえへも雪にあとつけてみちたえぬ人なしのらくし

志のふ山 陸奥 続後撰 一百首 春日恵慶

藤原定家

人しれす思ひは志のふ山志のひかねてそ色にいてぬる

古今和歌六帖 陸奥

いまはたゝ思ひのいろに志のふれはそれと志のふの山にかくれむ

志のふ山 陸奥 読人不知 業平朝臣

百三
志のふ山志のひてかよふみちもかな人の心のおくも見るへく

伊勢物語

源順朝臣

名寄
塩風はうちいれてなる志ほ津山こえいつゆきて見やこらん

新千
志らゝ山 白 又云 加賀 新古和 よみ人志らす
志らゝ山の高ねはよしもしれなくに志らたえしつゝ年のへぬらん

正治二年百首御会 後鳥羽院御製
白山の松の木陰にかくろへてやすらにすめるらいのとり

同 後二條関白
あつねるもこよひしほつ山はすむ月もまつ代のさかえてやとる あるしらん

志ほ津山 汐津又云 近江 又敦賀 百首 前大納言為家
あさ波の中さえにけり塩津山うちもやしすしもけさのかせ
雪のしたに 笠金村

志ほつ山うちこえくれハわかのれる駒そつまつく家こふらしも

弘長元年百首歌 後九条内大臣
見わけつる雪のひましの志ほ津山こえてみちなきわたる白雪

志らゝ山 江州 萬葉集 俊頼朝臣
志らゝ山風ハ吹とも別なくさ花さくハこいぬかれそ なころく

新古和 よみ人志らす
志らみ山ふもとの風の音きけハ河せまつこほりにけり ともすれ

志つくの山 又云 萬葉集 巻中 阿念
源顕之入道前右
五月雨に志つくの山ハ雲わけて志のゝはぬれてさ夜中まくら

題不知　拾中　よみ人しらす

いにしへよりはまやことゆりしつはた山なるはまなかくなすり漕さ　舟人

建長八年百首歌合　後九条内大臣

梅か枝のむつの花ころもいろそへてしつはたの山はるさめそふる

しつはた山　駿河　くめ百首歌合　慈鎮和尚

錦かとしつはた山の夕しくれおりにそぬさとなりけるはうるか

永久四年百首　藤原忠房

ちりしけるしつはた山のもみちはをさきちるよ地わ錦なりけり

しほくれ山　美作　散木集　俊頼之

俊頼朝臣

しつくましらつれ山のさくらかりをくもまのにしにさくそつけりをみちり

しらつくさ山　近江加賀有　千五百番歌合

常盤大納言為家

紅葉ちれしつかはかりの秋はしつくさの枝のくもまの花かそしつる

後京極摂政

しのゝめのしつくさ山のみねとをく檜原のくもれのそらは明ゆく

しなの山　甲斐　保安二年閏五月関白左大臣家歌合　河内

神祇伯顕仲

あさみるしなの山のいほにまくらなつかしみいて出そまつく

建長八年百首歌合　衣笠中納言家良

志かの山さしてのほれハ雲のうへにまたなかめやる春のあけほの　こめ之

新葉集雪　和泉式部

雪ふれハみやこのそらもさえまさりかすみも志かの山のそら　こえれ

詞花集　梁塵秘抄　よみ人しらす

ひえよさかしかさき山の名ハ志かのうらさそふしかの山むろ

みてしを御山すくの志かさきの経ハあまの山

志かの山　続拾遺集　西行上人

なきとりや志かの山ちハさそそさとふらふのさこし　うかめり

志かつき山　白河　左注　嘉安五年十二月　家

哥合撰和歌卿　清輔朝臣

卯花のさかりはやしかのさとの月山のかけかくれえん

新葉集　左京大夫顕輔

初雪ハいかにしかまの柿のもと志かのなき山の雪の哢

志かの雲山　左注　大嘗会悠紀方内屏風之歌

時つ山の志かの雲山のさくらはまたすてゝさかあかくらん

前中納言匡房

志かのなか山　同

志かのなかの山はひあかるひさの花百代へこゝのかへりひさしくさえれ

此哥ハ承暦四年大嘗会主基方内屏風

よ冊階圓しらぬ山の千年梅のにほさはよさらへた
旅人のあゆみとまらて

しほ山 鶯 新中 百首　前大納言為家

しほ山のおりてはひかのみえて末のまつすくにあらし しのくめ

しらひ山 大和 下揚 貫之　よみ人しらす

まひろくしたくめよみしてすしらひ山しらぬ水のうへのあをなん

ひきての山 大和 引よ 紀貫之 藤原為家卿

くれなゐの井よふくそみゆるちとせのひきての山のをとめ のもしつ

拾遺 新後 百首　後九条内大臣

あつさらひきその山のかりしきみ紅葉しかまくれて ひかりそ人丸

新古今

あつさらのひきその山は妹にきて山をかへりてはいかなるらん

ひえの山 比叡　よみ人しらす

さくらかりしてよもしらひとつの山人はいはくはしのねのあかし

ひら山 近江　弘安日吉一条経今

大宰権帥経信

羽よし山七ますす神の恵まれてくもらぬけい世のてらさん

弘安四年毎日三首中納言為家

日吉山 三上の中松のつきさたいやれはくらん千代の秋

ひら山 比良 近江 堀河集　安法法師

ちはやふるひえのやまの松かせにふゆかけすむ峯の白雲

ひえの峯山 歌合 家集 雲玉

後京極大臣入道二品の親王

それのみあさかの雲の中にたに初雪ふれるひえの峯山

歌合 家集

信実朝臣

都まてさしのそみゆる紫のひえの峯山雲ふりまさる

ひえの御山中務卿親王家三の合 河海

権僧正公朝

あふみちやゆくみえぬ峯にかくれしひえの大山まつ河海

ひえの峯山 をい 建長八年百首歌合

前内大臣

紫匂ふひえの峯山はるかにて見たすらゐるやまとうらん

ひえの峯山 をい 光明峯寺入道二品親王家五十首

前二條院右

嵐吹ひえの大山の杉の月かけさえ袖さえりやはせん

ひえの山 をい 弁乳母よつつりしらの

太納言経信

ひえの山あらしねさめとききしりとやへのをかすよ嵐ひめりかり

弁乳母

世のほかひえの山の朝日よりくもとられて出らそみにし

此三首新勅撰集云あまのはしたてとも一本あり
観音験示とて人のいましまつりしよ
大弐乳母通俊卿よりさそはれてまつり侍りて詠りて
弁乳母よいひやり侍るとなく
ひらの山 名所 新葉集 寛仁法親王
秋色すゝむ何と阿毎のそらつらんひらの山此程の 名所集
ひらさの山 名所 歌集 相模
さしてこしひらさ此山此程も身ハめとあきらかと見ゆしらぬやハ
ひさしの山 日吉 備中 正應大嘗会云
大蔵卿隆博

昔ちかひかの此ひさしの山さらにあかさらふ世のちしかとをしら
ひとへ山 山陰 山城 或大和 一 従二位
帰のく此らすき家のひとへ山菊美浮しきれのきれ
顕仲
よそ人ともす
秋ハらとくもあしすひとへ山とゆるまねくにはらゑひそ
ひらしの山 大和 建長八年百首歌合
従九条内大臣
ひさりこのもとて木のにされ白らしの山深らん
此哥判者歌ハ云ひらしの山みえされと
にあらてそこゆと云々

とくら山寺ともに百首中　従二位家隆卿

まち袖ハくちれハ露のみ深山の松乃葉分けて下りこらつ

建保三年九月百首　従三位行能卿

ねさめにみ名をたのむにとりの山のあらしそまさの松かさつぬ

家集　中納言通房卿

とる山よ秋のもしとよの色しあれハ紅葉ハ神の心ひけ　云々

此寺ハ先斎方の御房内よとる山よ神の社

ありそうありやすゝ人あり山よ紅葉あさ色と　云こ

まつ葉山　山城　従葉　云れ　紀貫之

はらしとてとらへの山よ上のくもしれ山ひこえよなりて

とくら山　古今　拾遺　指侍衛門督

三熊野や紀ちのいりこゆるとくら山なかしすゑのとくらの

建長八年百首歌合　光俊朝臣

あふひ葉よりつゝの山の紅くさとこれそこあれの御祈らん

此寺判者知家卿云あふひ葉をとろての山いそ

おほしくはけて御りとらく

とのさく山　上総　家集　俊頼

いはらるとのさく山の都ふめつぬくしにさとめる

まつこ山　上総　相模　中納言家持卿　人丸

まつこ山すゑけそとりんありてまのうへやうやと折ら

指かひの山 陸奥

たのもしなおもひにねなむことしまなくならしひとうさしのゆかひの山　よみ人しらず

ときはの山 常陸　正治二年百首

後白院入道二品のみこ

みなこそしもみぢの山は常盤なりけりわかの秋ふかき月もさえけり

家集十月十日比東山の紅葉をよみて

神無月ときはの山はかはらねと秋より外の秋風そふく

千五百番歌合　法橋顕昭

あさかつ紅葉に山はかはらしゆけはこのもとや色そかはりて

せきのと山 伊勢　新古和　よみ人しらず

東路よりみちはおそくはなけれともせきのと山のちらすもあらなん

すゝか山 伊勢　藻塩草

おもかけのうつるひかりのちりは

家長朝臣

昔みしとしのや伊勢路のすゝか山かはらてへてもみちはたのし

新葉集　女院藤子女王

鈴鹿山ふるの中なる思ひよりをもすゝすきそきれきりかれ

家集　小馬

うきふしの身はいとゝ鈴鹿山とはぬもなをすみかはしさされなさん

新古和　よみ人しらず

鈴鹿山伊勢をのあまの捨衣しほなれたりと人やみるらん

家集　　　　　藤原秀能

より捨てこし雨しらぬすゑ山おろしの風の吹とまやかれ

此哥は経衡か次の源法師か房にてかぎりなく

て侍りし人のもとへまかりしに逢坂山にてよみて

の歌の中よりとりて

すゑの山　山城　花ぞ知　まて人志らず

人志れず思ひのことぞすゑの山これはかりぬかれぬや　さは

末の松山　陸奥　家集　相模

おく波のこゝろあたなし秋やはなるらんすゑの松やまそこそ

入道関白家にて屏風末の松山

おもふことのひしねにすゑの松山にこよしさあらばちぎり世すらん

兼盛

洞院摂政家百首　待恋　俊成卿女

まつよひのかすやあきのこしぬるなるやさらに代すゑの松山

仁安二年三月法住寺殿哥合海邊霞

春霞たつ浪はしらのうらとも見えぬ末の松山

藤三位親盛

此哥の判に海邊すゑの松山の哥はいはしなし

侍りた海のさかりの霞にはへなかりけるらん

すゑのまつの松山は浪とれ陸のこゆかりける

山よりいてゝ遠江のきくかは海の浪松山の峯
よりみえこされてこゆるなりとみゆるゆゑされは
むかしの人はいかなりけれはや中すゑと名つけよまれ
けるは山よりこなたにふたつ流よりて見れは
人もありあそしちらへ江中納言のすゑまつ
の松山なとこそいはれのふる雲をさしてこそ
すゑとよまれけれはされをひとことよりけれ
よむとやさる人もかりそめかとよむなれ
ぬとこそ

すゑの山 次侯麻 越中 建長八年百首歌合

光俊朝臣

岩の戸はあけぬとさしてあらし衣すゑの松山松風そふく

越中国二上山にて詠之

中納言家持

ます神のすゑの山の春霞岩のさき式おほともあされきよ
よする白波かすみきこえみちのくの

すゑの山 次加 越中 郡名知 同

東七
君をゝきてあたし心をわかもたはすゑの松山波もこえなん

拾遺新撰百首 後九条内大臣

白雲のすゑの松山の月かけはしらすもてりそてかくれ

風雅集　衣笠内大臣

春は花日かけとなかめこしすみなれし山の人の心のあはれなむ色もなし

すみかの山　伴子名はなき和　為兼卿女

鶴か岡の清出くされは伴子ちかきすみかの山のくもそかゝる

新葉集に入る歌　兼政の女房

松風を枕の波のおとにきゝてさそれ経ぬるをすまの中山

内閣文庫
百拾壱枚
内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan